令和元年度　尼崎市一般廃棄物処理基本計画等策定支援業務委託

市民アンケート調査結果報告書

内容

1　調査概要 3
（1）　調査の目的 3
（2）　アンケートの概要 3
（3）　回収の概要 3
（4）　集計について 3
2　アンケート調査結果 4
（1）　回答者属性 4
（2）　ごみ減量の意識・浸透度について 8
（3）　情報源について 12
（4）　ごみの排出方法について 14
（5）　食品ごみについて 23
（6）　プラスチックごみについて 30
（7）　市の取り組みについて 32

令和 2 年(2020 年)2 月

エックス都市研究所

1　調査概要

（1）　調査の目的

尼崎市に居住する市民のごみ排出状況やごみに対する関心度、市の施策に関する意見等を把握し、新たな一般廃棄物処理基本計画において実施する施策等に反映させることを目的に、本調査を実施しました。

（2）　アンケートの概要

①　調査地域　　尼崎市内を対象に実施

②　対象者　　尼崎市に在住の満 20 歳以上の方

③　抽出方法　　年齢別人口を基に年代で送付数を割り付けし、住民基本台帳からランダムにサンプリング

④　調査方法　　郵送調査法

⑤　調査実施工程　令和元年 11 月 13 日：アンケート発送
令和元年 11 月 27 日：礼状兼督促状発送
令和元年 12 月　6 日：アンケート〆切

（3）　回収の概要

アンケート対象者	20 歳以上の尼崎市民 (年代を基に無作為抽出)
発送数	1,500 通
有効発送数	1,482 通
回収数	575 通
有効回収率	38.8%

（4）　集計について

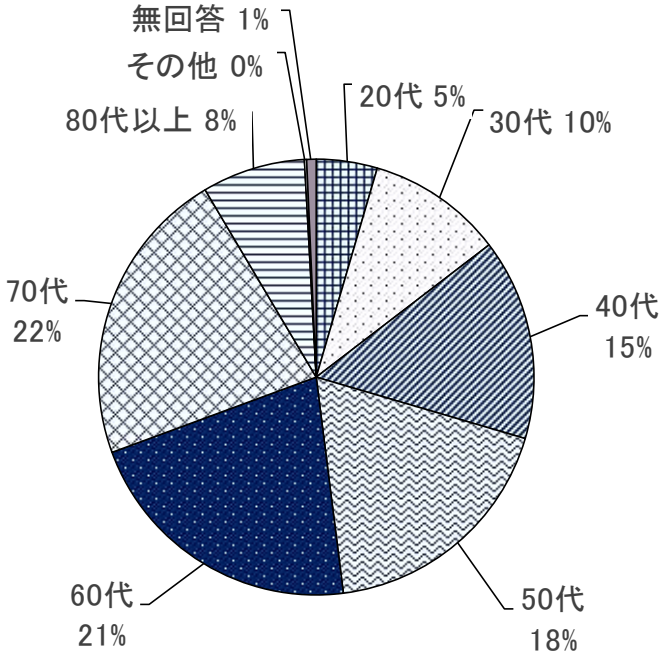
各設問の単純集計を示した上で、年代や世帯の種類によって大きく傾向が異なる結果が得られた場合は、回答者属性によるクロス集計結果を加え、まとめています。

2　アンケート調査結果

（1） 回答者属性

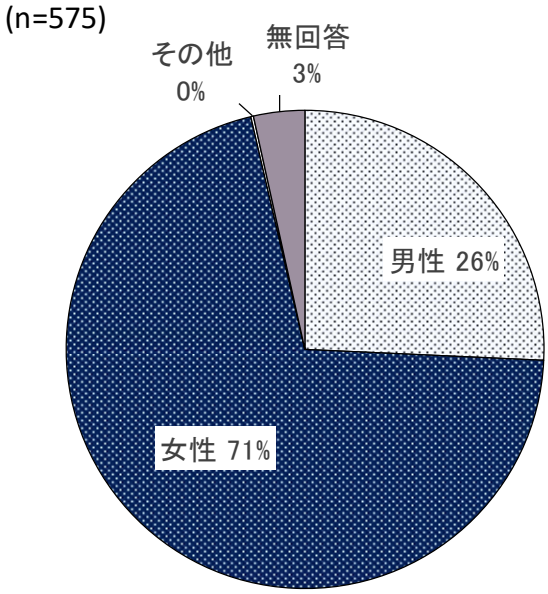
■　貴方の年齢をお教えください。

図表 1-1 回答者の年齢



■　性別をご記入ください。

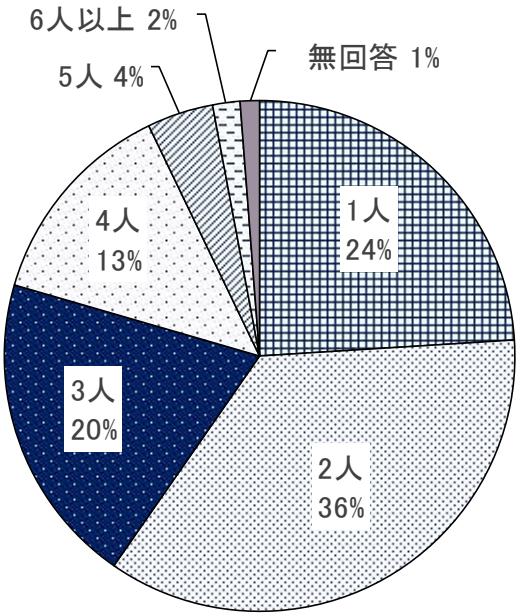
図表 1-2 回答者の性別



■　あなたを含め、同居人されている方の人数は何人ですか。

図表 1-3 回答者の同居人数

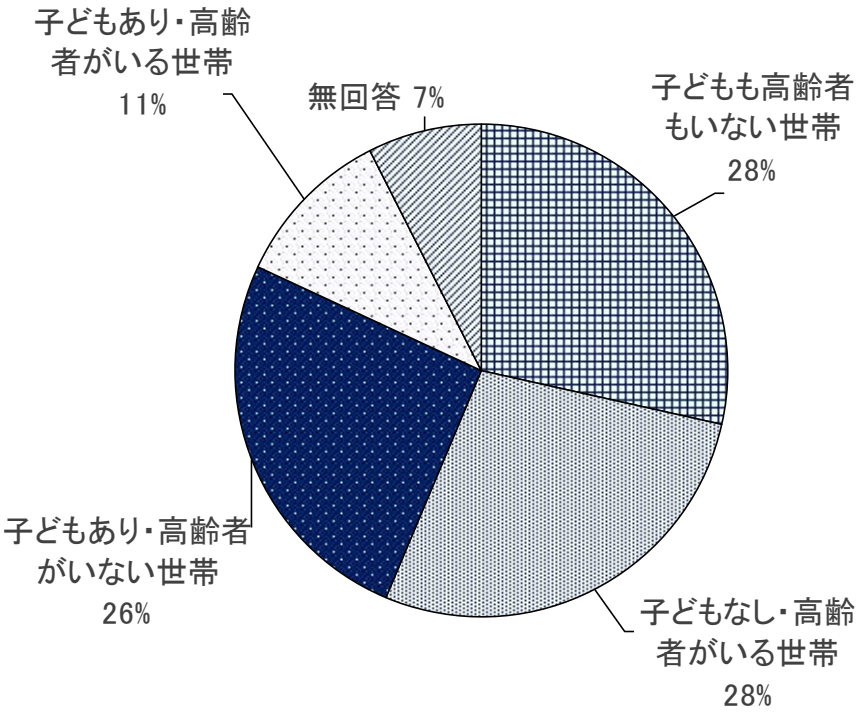
(n=575)



■　あなたを含め、同居人の世帯構成としてあてはまるものをお選びください。

図表 1-4 回答者の世帯構成

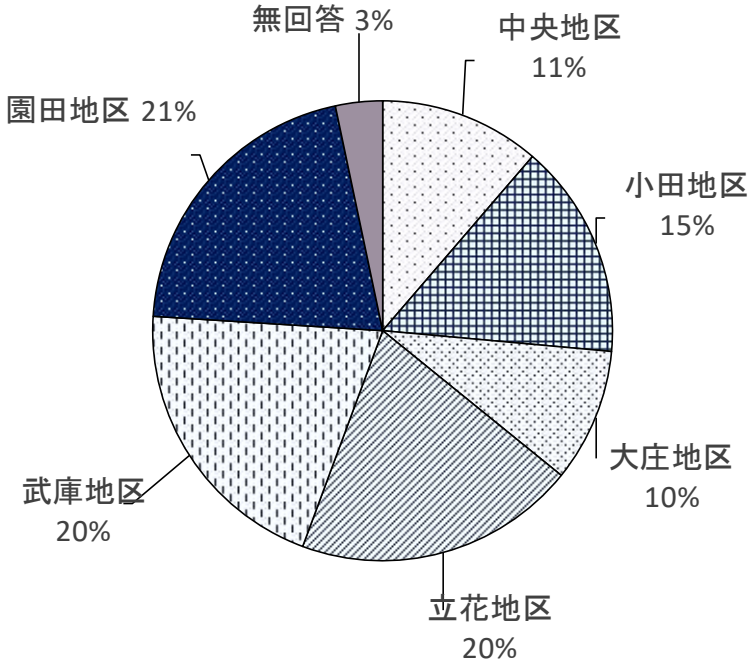
(n=575)



■　お住いの居住地区についてお教えください。

図表 1-5 回答者の居住地区

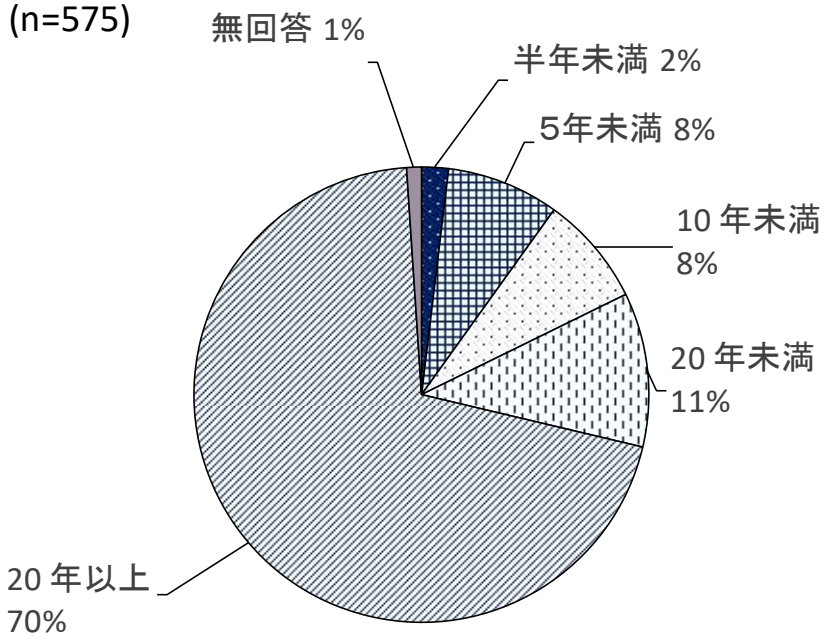
(n=575)



■　尼崎市にお住まいになられてから何年になりますか。

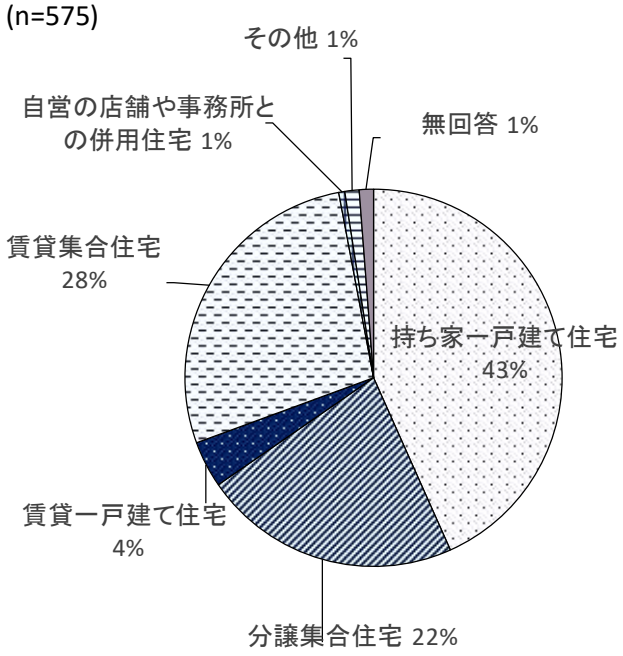
図表 1-6 回答者の居住年数

(n=575)



■　家の居住形態についてお教えください。

図表 1-7 回答者の居住形態

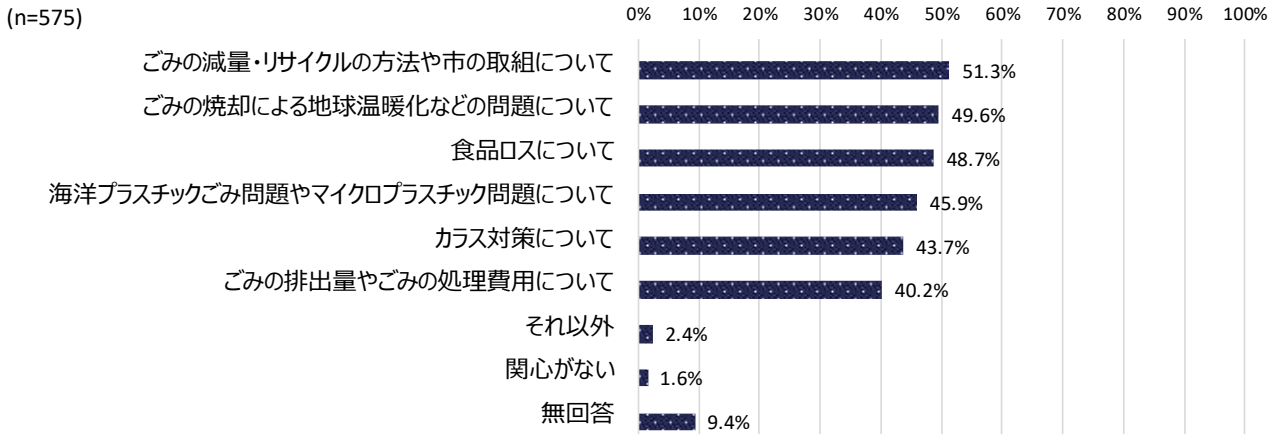


（2） ごみ減量の意識・浸透度について

問 1　次の項目のうち、あなたが関心のある事項をお教えください。（あてはまるもの全てに○）

「ごみ減量やリサイクルの方法や市の取り組みについて」に関心がある市民は半数程度（51.3%）となっています。また、「食品ロスについて」（48.7%）、「海洋プラスチックごみ問題やマイクロプラスチック問題について」（45.9%）といった新しい課題への関心は半数以下となっています。

図表 2-1 関心事項



年代別に見ると･･･

全般的に年齢が高い方が関心が高くなっていますが、「食品ロスについて」は、20 代の中でも関心が高く 50.0%が関心を持っています。

図表 2-2 関心事項 年代別

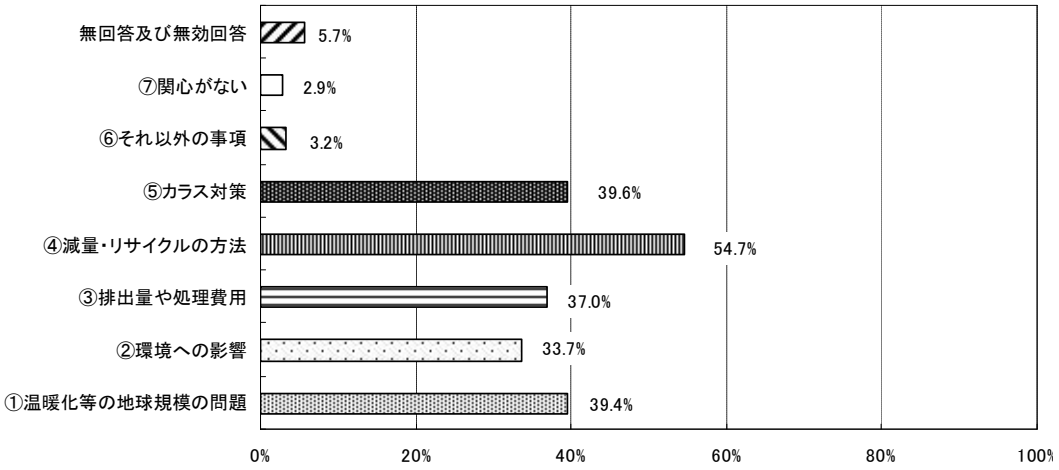
（%）	ごみの減量・リサイクルの方法や市の取組について	ごみの焼却による地球温暖化などの問題について	食品ロスについて	海洋プラスチックごみ問題やマイクロプラスチック問題について	カラス対策について	ごみの排出量やごみの処理費用について	それ以外	関心がない
全体　(n=575)	51.3	49.6	48.7	45.9	43.7	40.2	2.4	1.6
20代　(n=26)	42.3	42.3	50.0	30.8	34.6	34.6	0.0	3.8
30代　(n=58)	43.1	41.4	37.9	32.8	53.4	27.6	5.2	3.4
40代　(n=86)	46.5	43.0	50.0	32.6	44.2	41.9	3.5	1.2
50代　(n=106)	47.2	43.4	47.2	43.4	50.0	37.7	1.9	0.9
60代　(n=123)	56.1	54.5	56.1	55.3	45.5	45.5	0.8	0.8
70代　(n=127)	57.5	55.9	44.9	50.4	35.4	42.5	2.4	1.6
80代以上 (n=44)	56.8	63.6	52.3	63.6	38.6	40.9	4.5	2.3

「それ以外」の回答内容（自由記入）
○　ごみの出し方について（ごみ置き場の清掃をしているが、あまりにも皆無関心です）
○　分別方法について
○　バッテリー、アルカリ電池の処理
○　無料粗大ごみ回収は不法投棄ではないか気になっている
○　バイオ燃料の開発について
○　地球温暖化による台風の多発
○　温室効果ガス、尼崎市における CO2 削減の取り組み
○　ごみ処理に税金をかけること
○　他国との提携、交流の現状

前回の調査（平成 22 年 7 月実施）から

前回調査においても、「ごみ減量・リサイクルの方法や市の取り組みについて」に関心がある市民は半数程度（54.7%）となっています。「カラス対策について」（39.6%）、「ごみ焼却による地球温暖化などの地球規模の問題について」（39.4%）、「ごみの排出量や処理費用について」（37.0%）も、今回と同程度となっています。

図表 2-3 関心事項（前回調査結果）

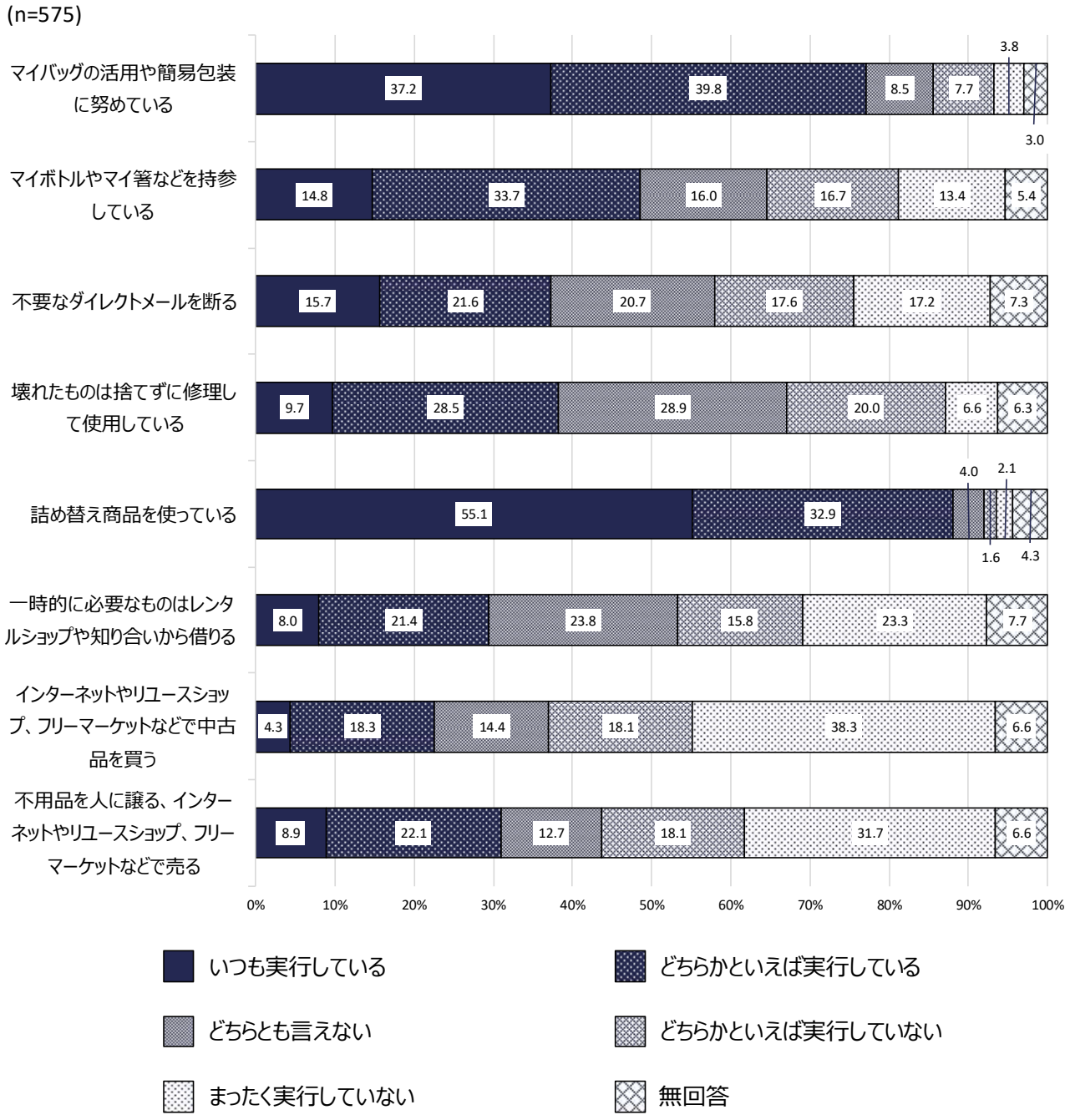


問２ あなたがご家庭で取り組んでいるリデュース(ごみの発生抑制)、リユース(再利用)の取り組みをお教えください。（取組毎に、あてはまるもの一つに〇）

「いつも実行している」、「どちらかと言えば実行している」を合わせて、「マイバッグの活用や簡易包装に努めている」は 77.0%、「詰め替え商品を使っている」は 88.0%が取組んでおり、リデュースに取組む市民の割合は高く、取組みは一定浸透しています。

一方で、「一時的に必要なものはレンタルショップや知り合いから借りる」は 29.4%、「インターネットやリユースショップ、フリーマーケットなどで中古品を買う」は 22.6%となっており、リユースに取組む市民の割合は低く、取組みが浸透していません。

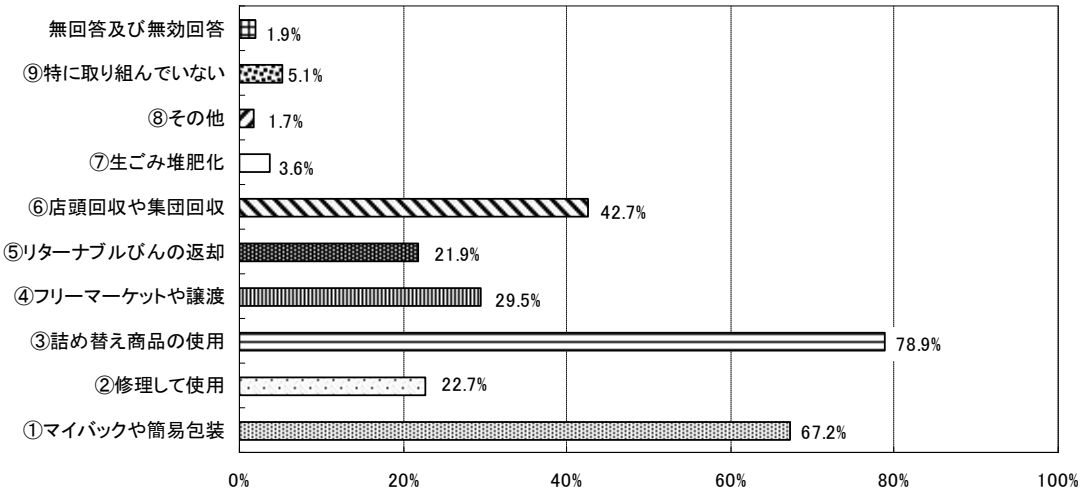
図表 2-4 リデュース・リユースの取り組み状況



前回の調査（平成 22 年 7 月実施）との比較

前回調査においても、リデュースの取組む市民の割合が高い一方で、リユースに取組む市民の割合が低くなっており、前回調査時と比較してもリユースの取組みは進んでいません。

図表 2-5 ごみの減量・リサイクルについてご家庭で取組んでいる事項（前回調査結果）



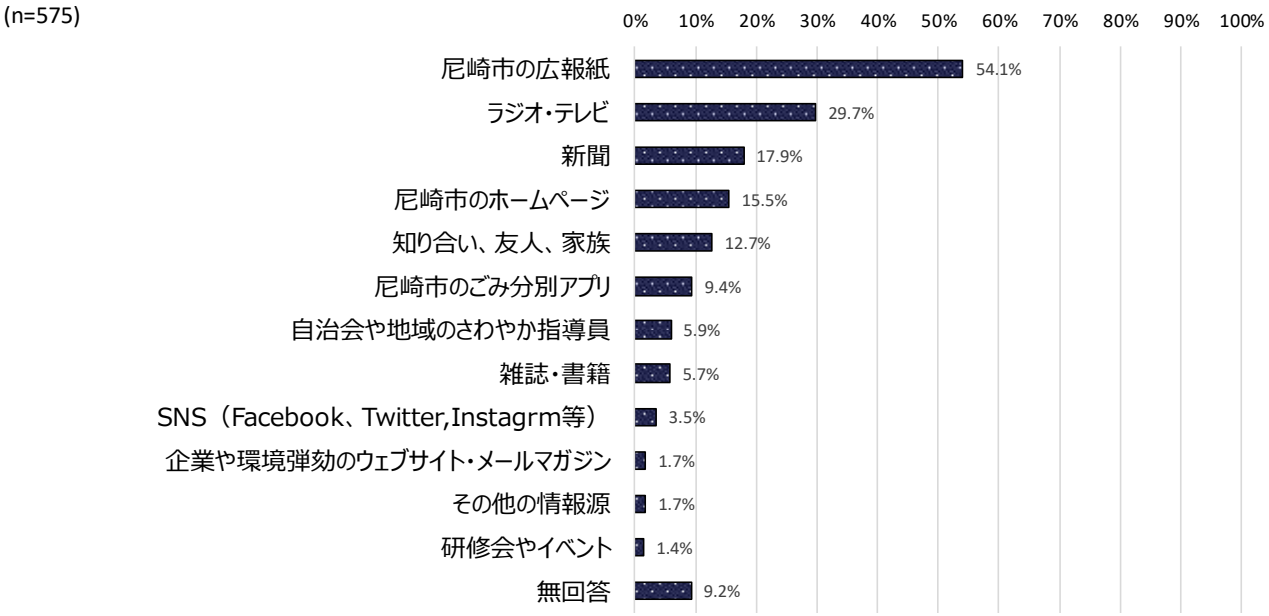
（3） 情報源について

問３ ごみ減量や分別、リサイクルに関する情報は、どのようにして知ることが多いですか。（項目毎に、あてはまるもの全てに〇）

■ ごみの減量に関する情報

「ごみ減量に関する情報」の情報源は、「尼崎市の広報紙」が最も多く 54.1%となっています。次いで、「ラジオ・テレビ」（29.7%）、「新聞」（17.9%）とマスメディアが続き、「尼崎市のホームページ」が 15.5%となっています。

図表 2-6 ごみ減量の情報源



年代別に見ると･･･

20 代では、「尼崎市の広報紙」を情報源とする割合が低く 15.4%ですが、50 代以上では半数以上が情報源としています。一方、尼崎市ホームページは 20 代や 30 代で他の世代と比べて情報源としている割合が高くなっいます。

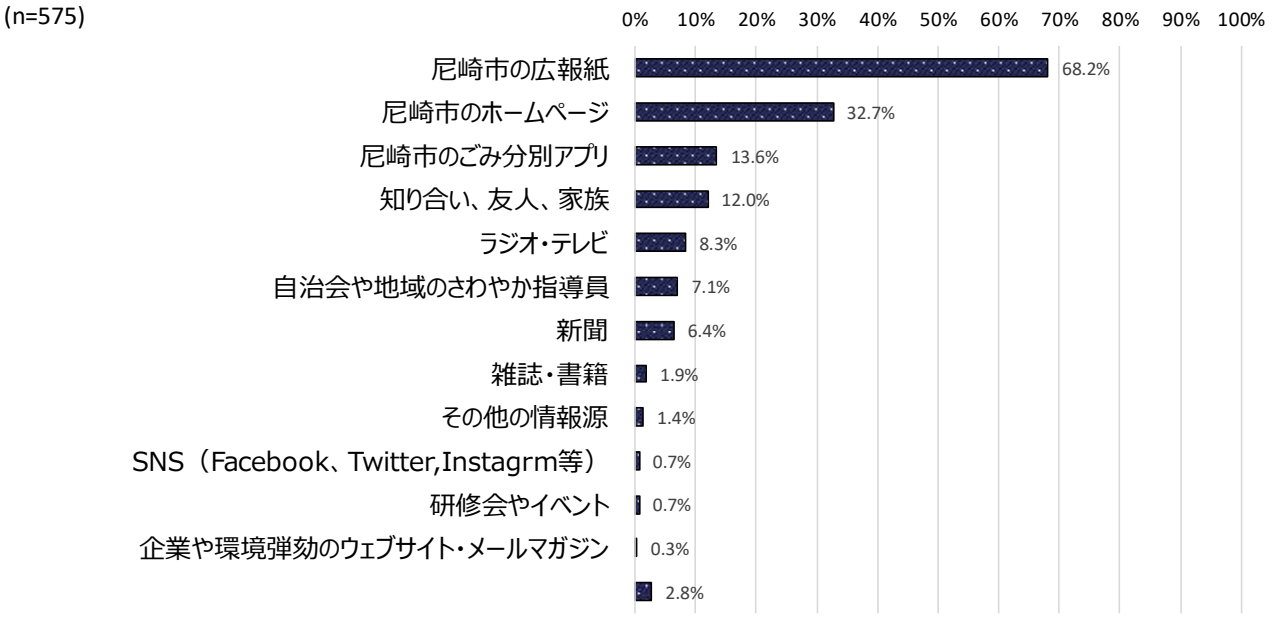
図表 2-7 ごみ減量の情報源 年代別

（%）	尼崎市の広報紙	ラジオ・テレビ	新聞	尼崎市のホームページ	知り合い、友人、家族	尼崎市のごみ分別アプリ	自治会や地域のさわやか指導員	雑誌・書籍	SNS（Facebook、Twitter、Instagrm等）	企業や環境団体のウェブサイト・メールマガジン	その他の情報源	研修会やイベント	無回答
全体 (n=575)	54.1	29.7	17.9	15.5	12.7	9.4	5.9	5.7	3.5	1.7	1.7	1.4	9.2
20代 (n=26)	15.4	26.9	3.8	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0	19.2	0.0	3.8	0.0	19.2
30代 (n=58)	34.5	29.3	6.9	22.4	8.6	3.4	0.0	5.2	8.6	3.4	5.2	1.7	17.2
40代 (n=86)	41.9	31.4	11.6	14.0	14.0	3.5	1.2	9.3	5.8	3.5	1.2	0.0	10.5
50代 (n=106)	57.5	29.2	19.8	17.0	13.2	3.8	4.7	7.5	2.8	0.9	0.9	0.9	7.5
60代 (n=123)	58.5	31.7	18.7	15.4	15.4	13.0	5.7	6.5	0.0	3.3	0.8	2.4	4.1
70代 (n=127)	70.1	28.3	29.9	11.8	12.6	15.7	11.0	3.9	0.0	0.0	2.4	1.6	4.7
80代以上 (n=44)	61.4	29.5	13.6	11.4	11.4	15.9	13.6	2.3	4.5	0.0	0.0	0.0	15.9

■　ごみの分別、分け方に関する情報

「ごみの分別、分け方に関する情報」の情報源は、「尼崎市の広報紙」が最も多く 68.2%、「尼崎市のホームページ」が 32.7%、「尼崎市のごみ分別アプリ」が 13.6%となっており、市の広報媒体が活用されていることがわかります。

図表 2-8 ごみの分別・分け方の情報源



年代別に見ると・・・

ごみ減量の情報源と同じく、若い年代で尼崎市のホームページを情報源とする割合が高くなっており、広報紙は 50 代以上では半数以上が情報源としています。

図表 2-9 ごみの分別・分け方の情報源　年代別

（%）	尼崎市の広報紙	尼崎市のホームページ	尼崎市のごみ分別アプリ	知り合い、友人、家族	ラジオ・テレビ	自治会や地域のさわやか指導員	新聞	雑誌・書籍	その他の情報源	SNS（Facebook, Twitter, Instagrm等）	研修会やイベント	企業や環境団体のウェブサイト・メールマガジン	無回答
全体　(n=575)	68.2	32.7	13.6	12.0	8.3	7.1	6.4	1.9	1.4	0.7	0.7	0.3	2.8
20代 (n=26)	34.6	42.3	11.5	3.8	7.7	0.0	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	0.0	0.0
30代 (n=58)	36.2	60.3	8.6	19.0	6.9	0.0	1.7	1.7	5.2	3.4	0.0	0.0	5.2
40代 (n=86)	59.3	53.5	5.8	8.1	7.0	2.3	2.3	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2
50代 (n=106)	74.5	38.7	4.7	11.3	8.5	8.5	6.6	2.8	0.9	0.0	0.0	0.9	2.8
60代 (n=123)	73.2	22.0	17.9	12.2	9.8	7.3	6.5	2.4	0.8	0.0	1.6	0.0	3.3
70代 (n=127)	82.7	17.3	18.9	13.4	7.9	14.2	11.0	0.8	0.8	0.0	0.8	0.0	2.4
80代以上 (n=44)	79.5	13.6	29.5	11.4	9.1	6.8	6.8	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0

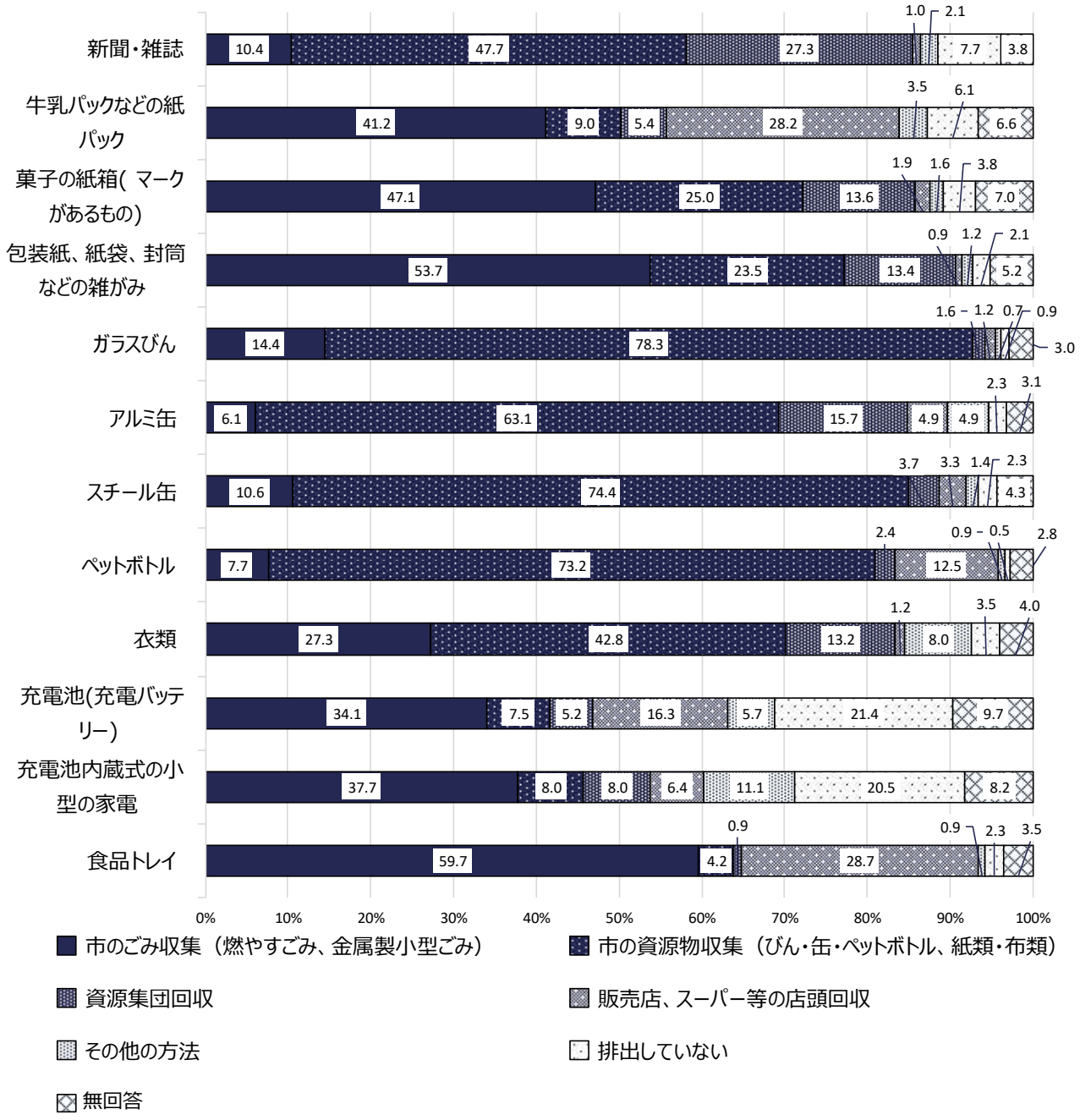
（4） ごみの排出方法について

問４ あなたのご家庭では、次の品目を主にどのように出されていますか。それぞれの品目について、その処分方法をお教えください。（品目毎に、あてはまるもの１つに〇）

紙類について、「新聞・雑誌」は 76.0%が資源として分別排出している一方、「菓子の紙箱」や「包装紙、紙袋、封筒」といった雑がみについては資源として分別排出している割合が 40%以下となっています。びん・缶・ペットボトルについては、いずれも 80%以上が資源として分別排出されています。

また、ごみの収集運搬時に火災等の原因となる充電池は、34.1%が分別されずに市のごみ収集に排出されています。食品トレイについても、59.7%が資源として店頭回収等に排出されず、市のごみ収集に排出されています。

図表 2-10 ごみの排出方法

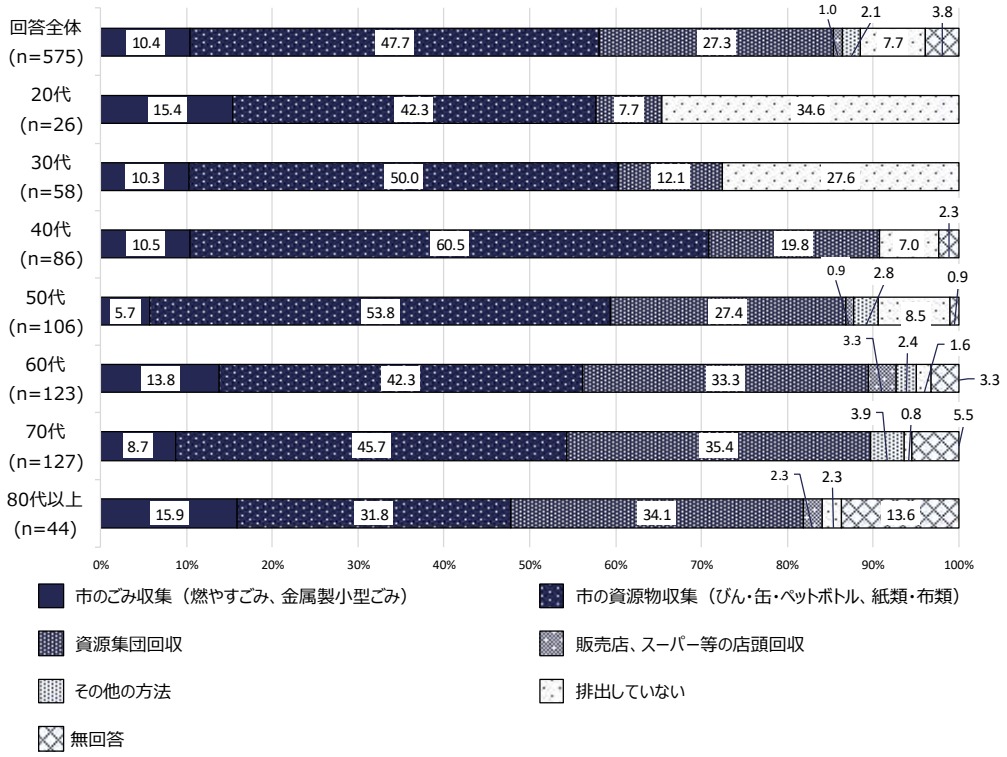


年代別に見ると･･･

■新聞・雑誌

20 代、30 代ではそもそも「排出していない」の割合が高くなっています。また資源集団回収の利用は、若い年代で低く、年齢が高くなるにつれ利用率が高くなっています。

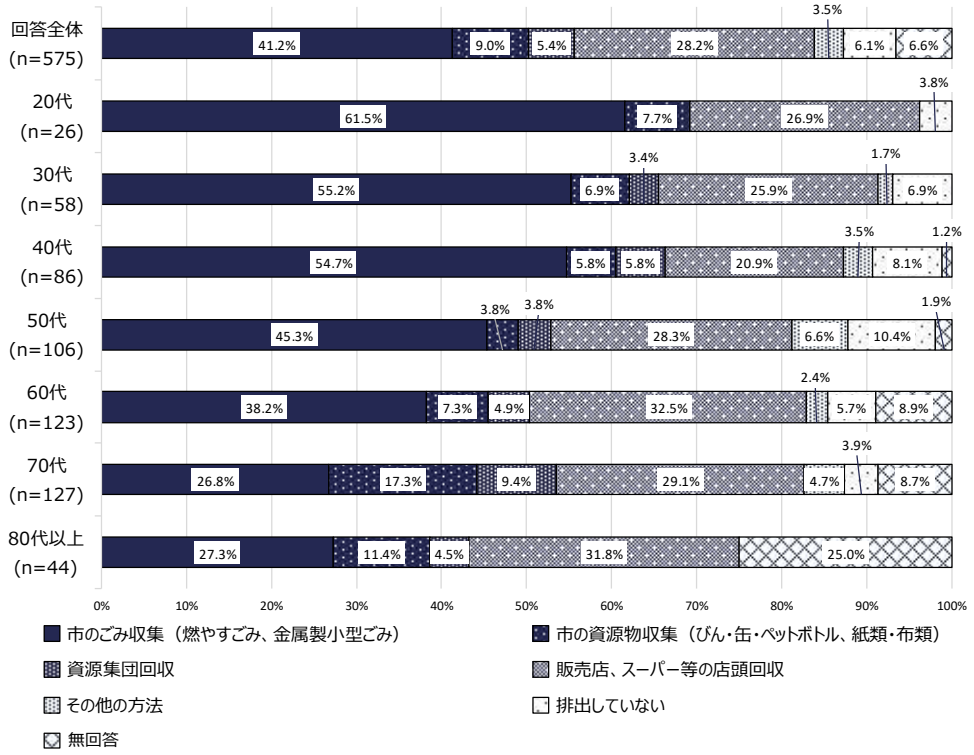
図表 2-11 新聞･雑誌の排出方法 年代別



■牛乳パック

特に 20 代～40 代で「市のごみ収集（燃やすごみ、金属製小型ごみ）」に排出している割合が半数を超えており、高い割合となっています。

図表 2-12 牛乳パックの排出方法 年代別

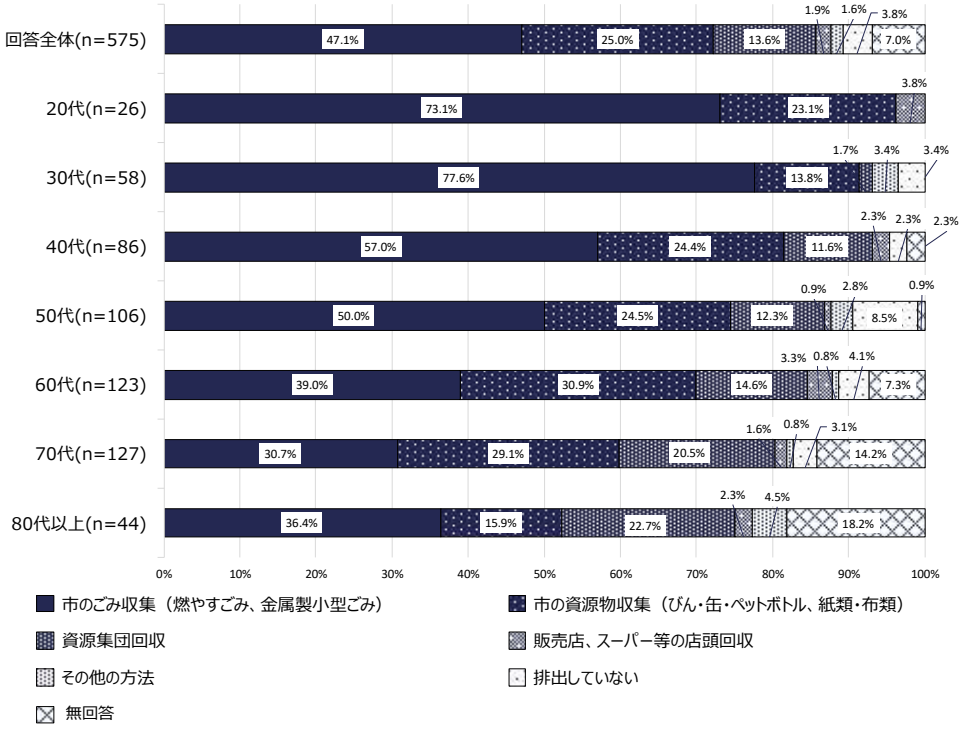


年代別に見ると･･･

■菓子の紙箱

特に 20 代～50 代で「市のごみ収集（燃やすごみ、金属製小型ごみ）」に排出している割合が半数を超えており、高い割合となっています。

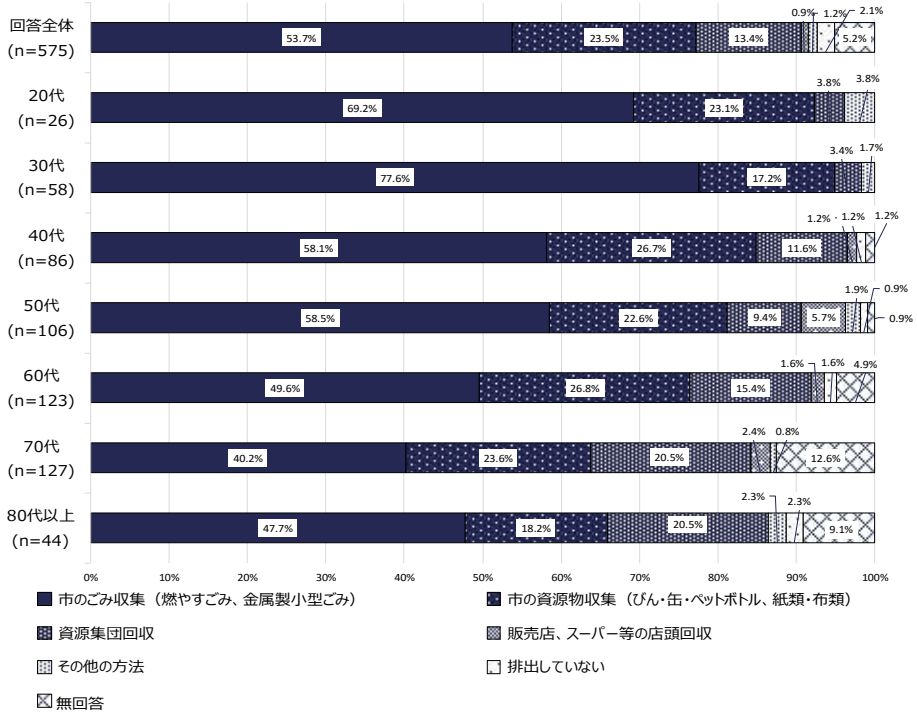
図表 2-13 菓子の紙箱の排出方法 年代別



■包装紙、紙袋、封筒などの雑がみ

牛乳パックや菓子の紙箱等と同じく、特に 20 代～50 代で「市のごみ収集」に排出している割合が半数を超えており、高い割合となっています。新聞・雑誌に含まれない牛乳パックや雑がみ類については、古紙として分別排出が進んでおらず、特に若い世代でその傾向が強くなっています。

図表 2-14 包装紙、紙袋、封筒の排出方法 年代別

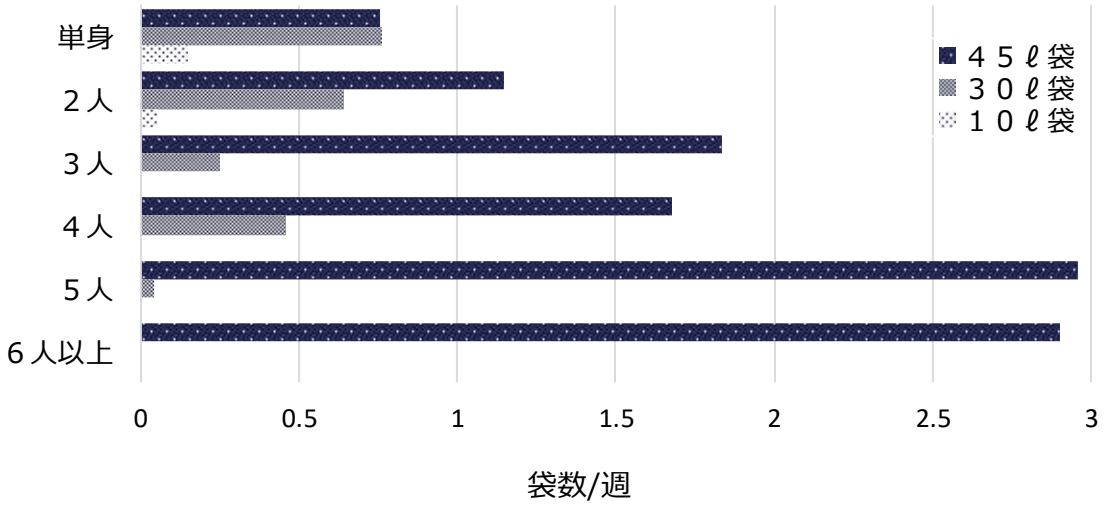


問 5 現在の尼崎市では、「燃やすごみ」を週２回、「びん・缶・ペットボトル」を週１回、それぞれ収集しています。あなたの世帯では、週に指定袋を何袋出されますか。（おおよその量で結構です。（　）内に数字を記入）

■　燃やすごみ

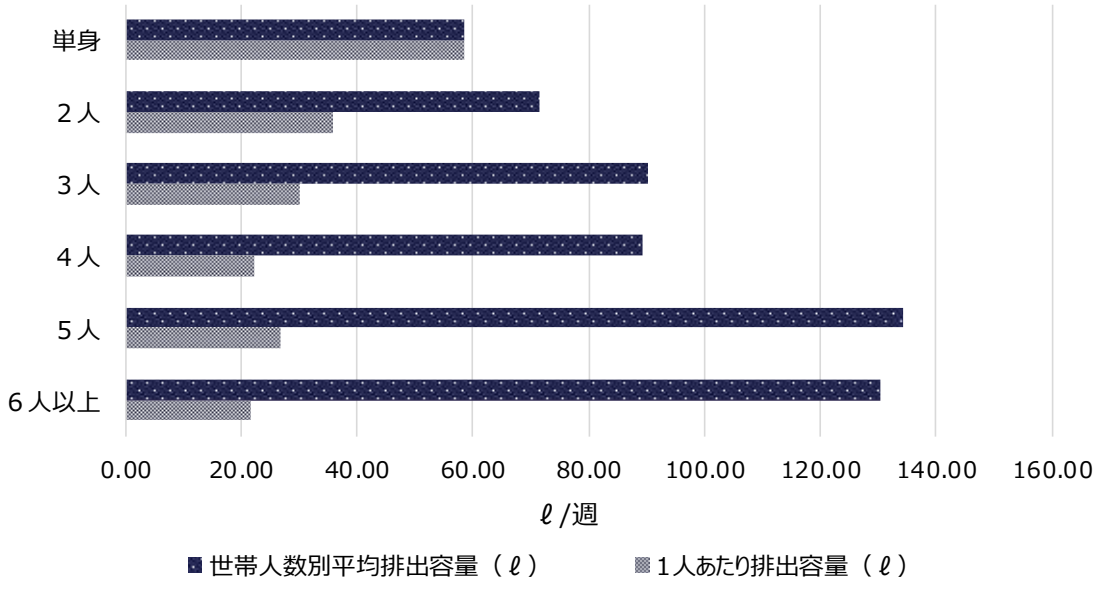
単身世帯では、30ℓ袋と 45ℓ袋のいずれも同程度利用されており、2 人以上の世帯では、45ℓ袋の利用の方が多くなっています。

図表 2-15 燃やすごみの世帯別平均排出袋数（週ごと）



容量別の袋数から排出容量（ℓ）に換算し、世帯人数別の平均排出容量と 1 人当たり排出容量を集計したところ、1 人当たり排出容量は単身世帯が最も高く、世帯人数が増えると 1 人当たり排出容量が下がる傾向があります。

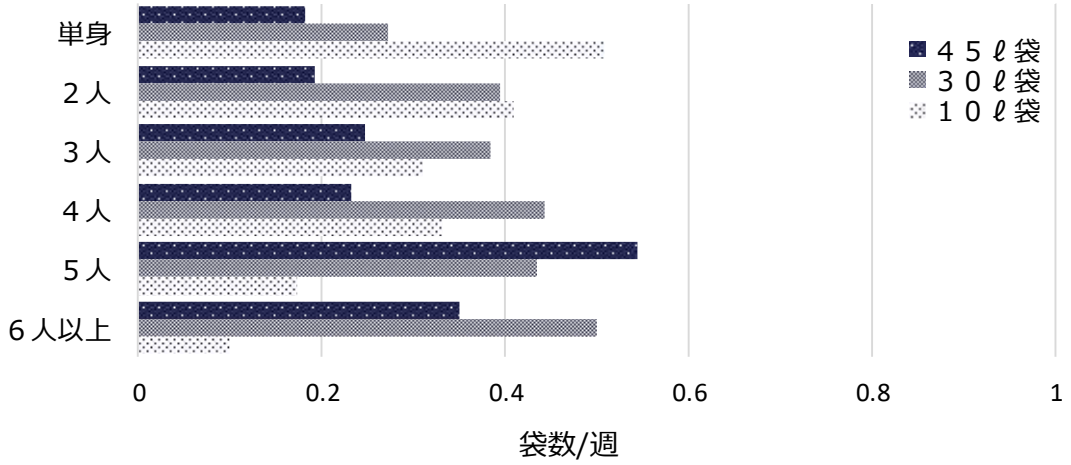
図表 2-16 燃やすごみの世帯人数別平均排出容量と 1 人当たり排出容量



■　びん・缶・ペットボトル

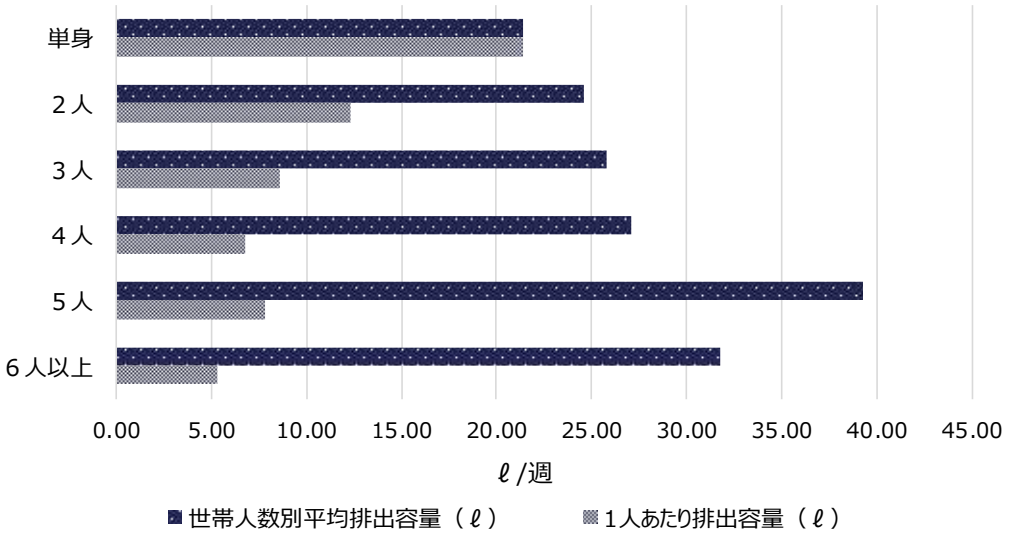
びん・缶・ペットボトルについては、排出量が少ないためか、燃やすごみと比べて 10ℓ袋の利用が多くなっています。

図表 2-17 びん・缶・ペットボトルの平均世帯別排出袋数（週ごと）



燃やすごみと同様に、容量別の袋数から排出容量（ℓ）に換算し、世帯人数別の平均排出容量と 1 人当たり排出容量を集計したところ、1 人当たり排出容量は単身世帯が最も高く、世帯人数が増えると 1 人当たり排出容量が下がる傾向があります。

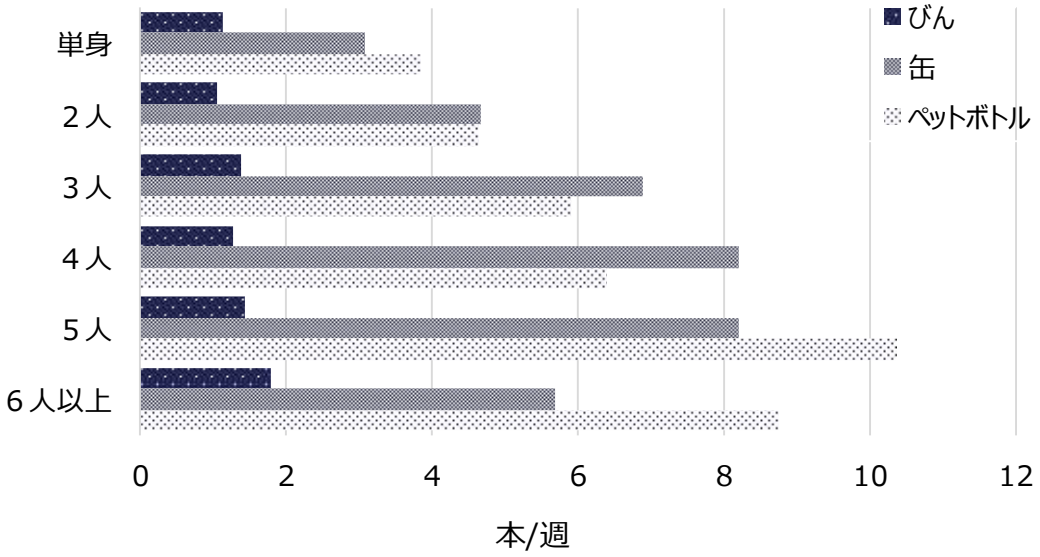
図表 2-18 びん・缶・ペットボトルの世帯別平均排出容量と 1 人当たり排出容量



問 6 あなたの世帯ではびん、缶、ペットボトルを、それぞれ週に何本出されますか。（おおよその量で結構です。1 週間での排出本数を（ ）内に記入）

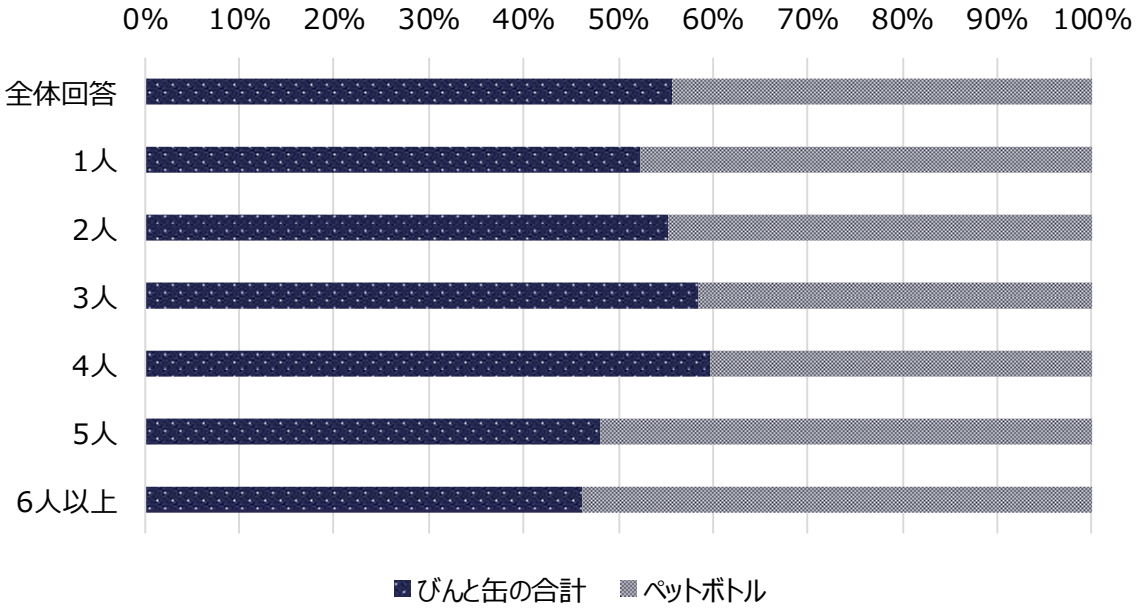
びん、缶、ペットボトルの排出本数を世帯人数別に見ると、びんの排出本数は大きく変わりませんが、缶とペットボトルについては、5 人世帯をピークに、世帯人数が多くなるにつれて排出本数が多い傾向になることがわかります。

図表 2-19 びん・缶・ペットボトルの世帯人数別平均排出本数



びんと缶、ペットボトルの排出本数の比率は、いずれの世帯でもおおよそ 1 対 1 となっています。

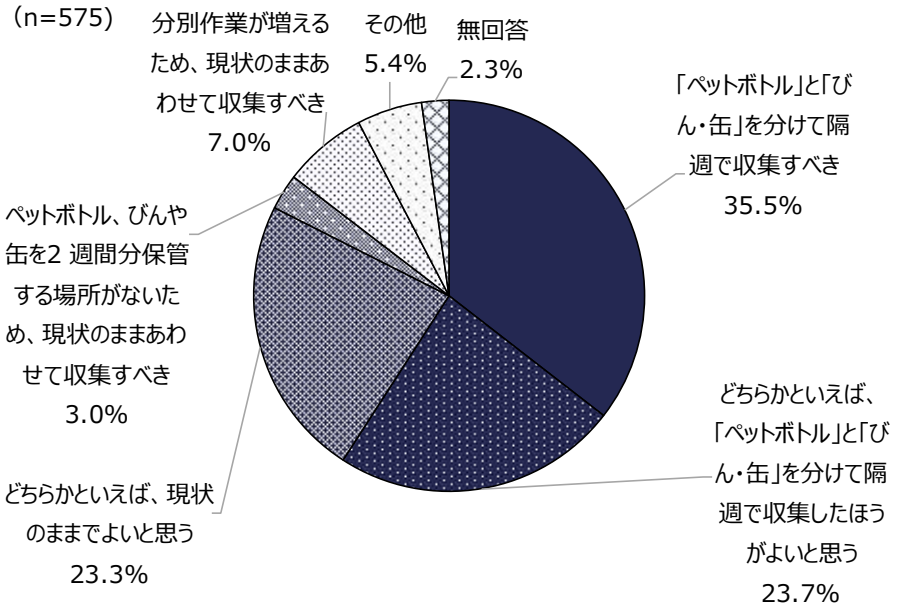
図表 2-20 びん・缶・ペットボトルの世帯人数別排出比率



問７ 尼崎市では、「びん・缶・ペットボトル」を週１回あわせて収集し、ごみ処理施設で「びん」と「缶」と「ペットボトル」に選別してリサイクルしています。ペットボトルについては、綺麗な状態であれば年間数千万円で売却できるのですが、現在、割れたびんの破片などが付着し汚れているため、０円で引き取られています。この状況を改善するため、「ペットボトル」と「びん・缶」を隔週ごとに収集する方法が考えられます。今後、びん、缶、ペットボトルの収集方法はどのようにすべきだと考えますか。（あてはまるもの１つに○）

今後の資源ごみの収集方法については、「『ペットボトル』と『びん・缶』を分けて隔週で収集すべき」が 35.5%、「どちらかといえば『ペットボトル』と『びん・缶』を分けて隔週で収集したほうがよいと思う」が 23.7%であり、「ペットボトル」と「びん・缶」を分けて収集することについて、あわせて 59.2%の方が新たな分別収集案に理解を示しています。

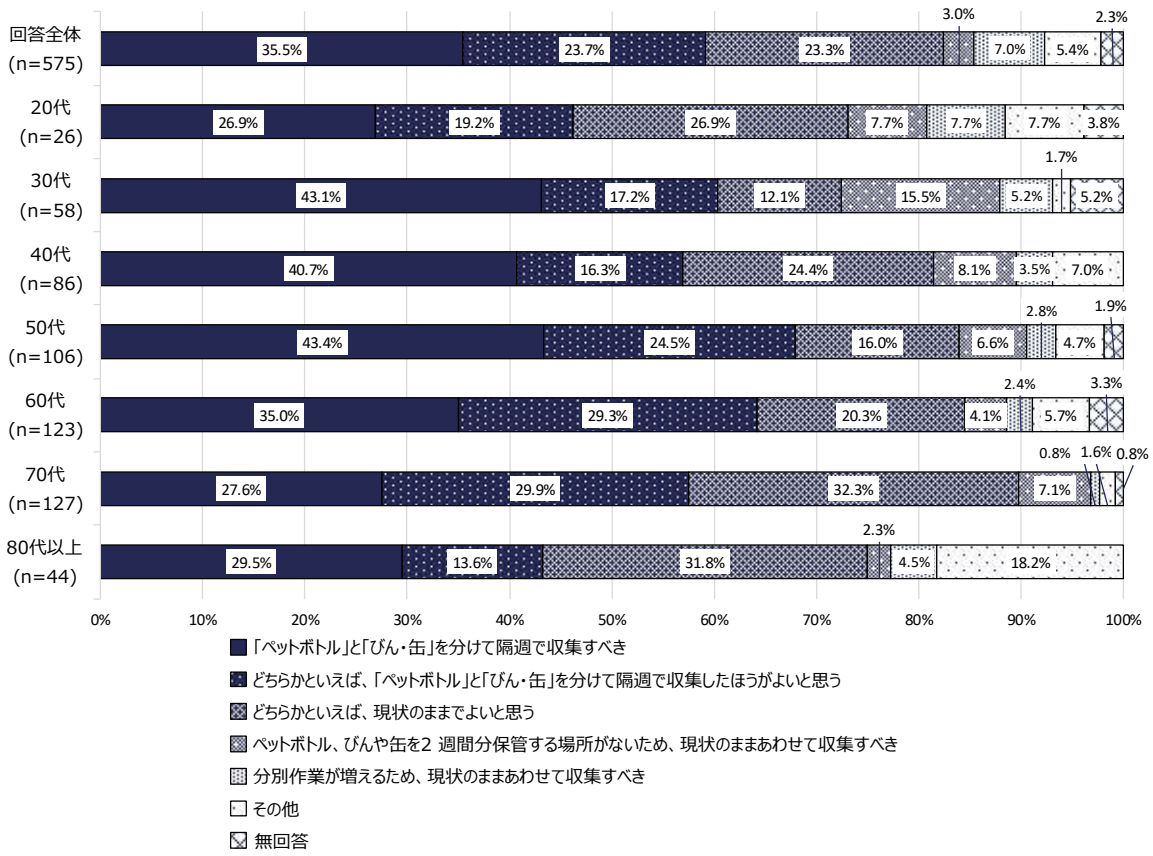
図表 2-21 今後の資源ごみの収集方法



年代別に見ると･･･

30 代～50 代で、「『ペットボトル』と『びん・缶』を分けて隔週で収集すべき」の割合が高く、40%を越えています。70 代、80 代で「現状のままでよい」の割合が高くなっています。

図表 2-22　今後の資源ごみの収集方法　年代別



「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの

【選択肢以外の頻度・分別】

○　月に一回でいいと思う

○　「びん・缶」「ペットボトル」を分けて出し、週１回収集

○　ペットボトルは隔週、ビン缶は月に１回でよいと思う

○　「ペットボトル」と「缶びん」は分けて収集。週１回曜日を変える

○　別々の袋に入れて同じ日に出せないか。回収車の荷台を二つに仕切って同時に回収するようなことができれば、今週はどっちの週だっけと考えずに済むため

○　袋を分けて毎週収集

○　「びん・かん」「ペットボトル」に分けるのは良いと思いますが隔週では難しいと思う

○　分別は良いが、隔週は衛生上良くないので週１がいい

○　分別することは賛成。回収は現状のままにして頂きたい

○　今と同じ収集で、「ペットボトル」と「缶・ビン」と袋を分けて出す

○　「伊丹方式」がよい

○　有料の指定袋をそれぞれに使用しなくてはならないため、現状のままが良い。ただし、指定袋を利用しなくても良いなら、分別するべき

○　カゴなどを作って、各ごみおきにおいて感・ビン・ペットボトルをすべて分けてもらうが、週に一回すべて回収できるようにしてくださるとうれしいです
○　私の所ではペットボトルびん缶の空が出ないため、改善例のほうがいいと思う。

【出し方について】
○　少ないのでたまってからだす
○　どんな袋でもよければ分けたほうが良いと思う。ペットボトルはキャップとりラベルとり洗うを徹底すべき。

【その他の意見】
○　できれば５ですが、プラスチックごみ問題もあるので１でもいいと思う
○　（容器包装を）あまり使わないようにしている
○　スーパー（の資源回収）で充分
○　ペットボトル・トレー洗って乾かし、スーパーの分別箱へ持参
○　多数意見に従う。今はほぼ月に１回利用している
○　市町村により収集方法が違うのがいけない。分別を全国同じにする。→子どもの頃から教育する。
○　気をつける人はきちんと出すがしない人はいくら言っても直らないと思うので集めてから分別する人を雇いお願いする
○　ごみ置き場から「かん」を回収している人をなんとかしてほしい
○　中、小のごみ袋をもっと安くしバラバラに出した方が良いと思う！
○　量が少ないため、指定袋を使用しない方法が良い

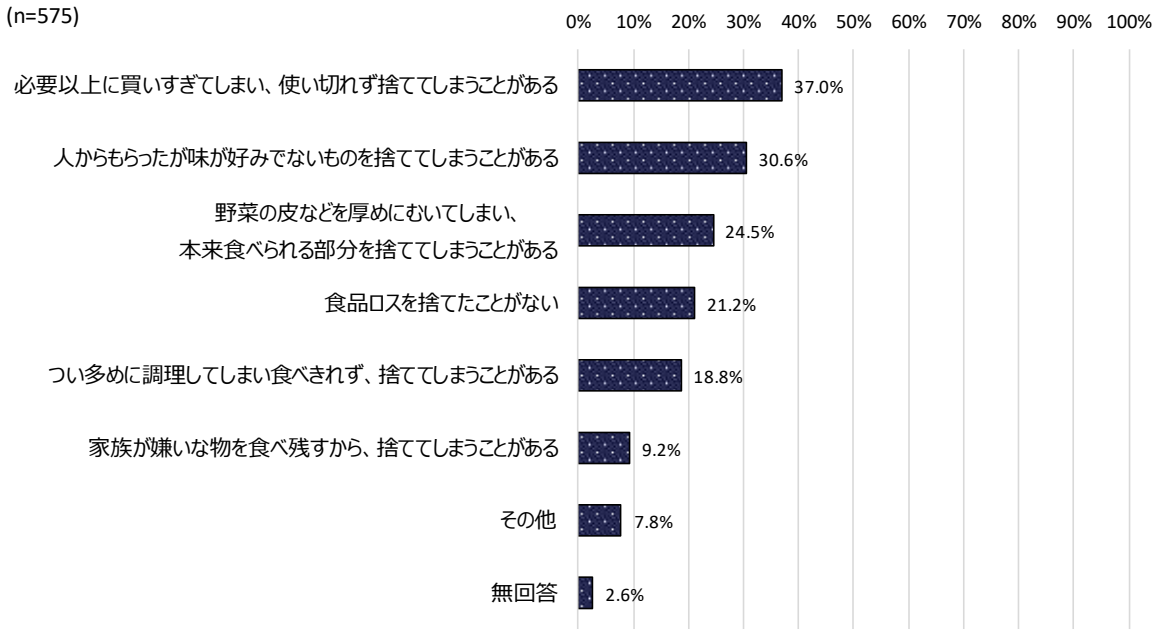
（5） 食品ごみについて

問８ あなたの世帯から出る「食品ロス」（※）にはどういったものがありますか。（あてはまるもの全てに○）

（※）食品ロス…まだ食べられるのに捨てられる食品のこと

食品ロスの発生要因について、「必要以上に買いすぎてしまい、使い切れずに捨ててしまうことがある」が 37.0%、「人からもらったが味が好みではないものを捨ててしまうことがある」が 30.6%となっています。

図表 2-23 食品ロスの発生要因



年代別に見ると･･･

いずれの食品ロスの発生状況も、30 代が多くなっています。

図表 2-24 食品ロスの発生要因 年代別

（%）	必要以上に買いすぎてしまい、使い切れず捨ててしまうことがある	人からもらったが味が好みではないものを捨ててしまうことがある	野菜の皮などを厚めにむいてしまい、本来食べられる部分を捨ててしまうことがある	食品ロスを捨てたことがない	つい多めに調理してしまい食べきれず、捨ててしまうことがある	家族が嫌いな物を食べ残すから、捨ててしまうことがある	その他	無回答
全体 (n=575)	37.0	30.6	24.5	21.2	18.8	9.2	7.8	2.6
20代 (n=26)	30.8	23.1	23.1	19.2	7.7	7.7	7.7	3.8
30代 (n=58)	55.2	48.3	29.3	6.9	25.9	19.0	8.6	0.0
40代 (n=86)	44.2	39.5	24.4	12.8	15.1	7.0	5.8	0.0
50代 (n=106)	34.0	34.9	27.4	21.7	13.2	9.4	5.7	2.8
60代 (n=123)	35.0	26.0	25.2	19.5	25.2	7.3	8.1	3.3
70代 (n=127)	31.5	23.6	22.0	29.1	22.8	8.7	8.7	2.4
80代以上 (n=44)	36.4	18.2	20.5	34.1	9.1	9.1	11.4	4.5

世帯の種類別に見ると･･･

世帯の種類別に見ると、「子どもあり」の世帯においては、「家族が嫌いな食べ物を残すから、捨ててしまうことがある」割合が高くなっています。また、「子どもなし・高齢者がいる世帯」において、「つい多めに調理してしまい食べきれず、捨ててしまうことがある」割合が高くなっています。

図表 2-25 食品ロスの発生要因 世帯種別

（%）	必要以上に買いすぎてしまい、使い切れず捨ててしまうことがある	人からもらったが味が好みでないものを捨ててしまうことがある	野菜の皮などを厚めにむいてしまい、本来食べられる部分を捨ててしまうことがある	食品ロスを捨てたことがない	つい多めに調理してしまい食べきれず、捨ててしまうことがある	家族が嫌いな物を食べ残すから、捨ててしまうことがある	その他	無回答
全体 (n=575)	37.0	30.6	24.5	21.2	18.8	9.2	7.8	2.6
子どもも高齢者もいない世帯（n=164）	38.4	31.7	25.6	22.6	12.8	3.0	5.5	1.2
子どもなし・高齢者がいる世帯（n=160）	41.9	28.8	21.3	23.8	25.0	10.0	8.1	1.3
子どもあり・高齢者がいない世帯（n=147）	41.5	37.4	29.3	13.6	21.1	16.3	6.1	0.7
子どもあり・高齢者がいる世帯（n=61）	23.0	29.5	31.1	18.0	14.8	11.5	13.1	0.0

「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの

【選択肢以外の頻度・分別】

○ なるべく捨てないようにしている

○ 冷蔵庫に入れて忘れてしまうことが時々ある。

○ 買ったのに気分で食べたくなくなって放置して捨ててしまうことがある。

○ 食べられる分しか購入しません。

○ 調味料など賞味期限を過ぎてしまい古くなり捨てるものはある。

○ 私はありませんが母が食品ロスをすることがあります。人によるのでは？

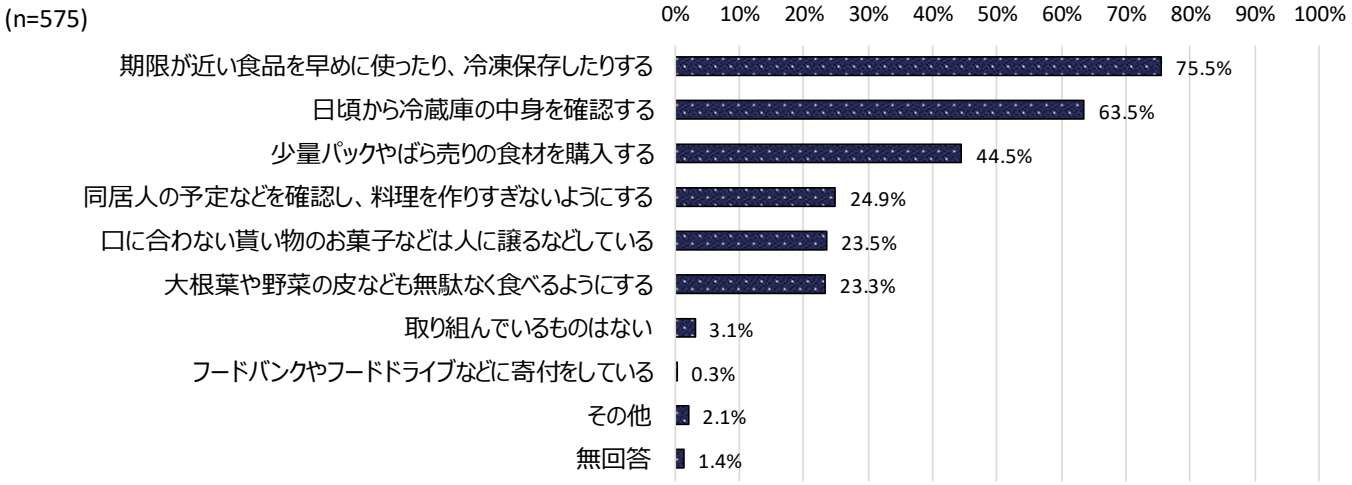
○ お正月やお盆など親戚が集まる時にお土産をたくさん貰うが量が多すぎて賞味期限を切らして捨ててしまう。

問９ あなたの世帯で食品ロスを減らすために取り組んでいることはありますか。（あてはまるもの全てに○）

食品ロスの削減のための取り組みとして「期限が近い食品を早めに使ったり、冷凍保存したりする」が 75.5%、「日頃から冷蔵庫の中身を確認する」が 63.5%となっています。

「フードバンクやフードドライブなどに寄付をしている」は 0.3%となっており、取組みが市民に認知されていません。

図表 2-26 食品ロス削減の取り組みについて



年代別に見ると･･･

50 代以上の高齢層において、「少量パックやばら売りの食材を購入する」割合が高くなっています。また、「大根葉や野菜の皮なども無駄なく食べるようにする」といった工夫についても、50 代以上の高齢層で多く取組まれています。

図表 2-27 食品ロスを減らすための取り組み 年代別

（%）	期限が近い食品を早めに使ったり、冷凍保存したりする	日頃から冷蔵庫の中身を確認する	少量パックやばら売りの食材を購入する	同居人の予定などを確認し、料理を作りすぎないようにする	口に合わない貰い物のお菓子などは人に譲るなどしている	大根葉や野菜の皮なども無駄なく食べるようにする	フードバンクやフードドライブなどに寄付をしている	その他	取り組んでいるものはない	無回答
全体 (n=575)	75.5	63.5	44.5	24.9	23.5	23.3	0.3	2.1	3.1	1.4
20代 (n=26)	80.8	61.5	38.5	30.8	19.2	11.5	0.0	7.7	3.8	3.8
30代 (n=58)	79.3	65.5	37.9	31.0	25.9	20.7	1.7	3.4	3.4	0.0
40代 (n=86)	70.9	59.3	33.7	14.0	27.9	8.1	0.0	1.2	8.1	1.2
50代 (n=106)	77.4	65.1	45.3	41.5	28.3	23.6	0.0	1.9	1.9	0.9
60代 (n=123)	71.5	65.9	50.4	19.5	19.5	25.2	0.0	0.8	2.4	1.6
70代 (n=127)	81.9	62.2	45.7	23.6	20.5	31.5	0.8	1.6	0.0	0.8
80代以上 (n=44)	70.5	65.9	59.1	15.9	22.7	31.8	0.0	4.5	4.5	0.0

世帯の種類別に見ると･･･

世帯の種類別に見ると、「子どもなし」の世帯において「少量パックやばら売りの食材を購入する」割合が高くなっています。「高齢者がいる世帯」において、「大根葉や野菜の皮なども無駄なく食べるようにする」割合が高くなっています。「子どもあり」の世帯において、「同居人の予定などを確認し、料理を作りすぎないようにする」割合が高くなっています。

図表 2-28 食品ロスを減らすための取り組み 世帯種別

（%）	期限が近い食品を早めに使ったり、冷凍保存したりする	日頃から冷蔵庫の中身を確認する	少量パックやばら売りの食材を購入する	同居人の予定などを確認し、料理を作りすぎないようにする	口に合わない貰い物のお菓子などは人に譲るなどしている	大根葉や野菜の皮なども無駄なく食べるようにする	フードバンクやフードドライブなどに寄付をしている	その他	取り組んでいるものはない	無回答
全体 (n=575)	75.5	63.5	44.5	24.9	23.5	23.3	0.3	2.1	3.1	1.4
子どもも高齢者もいない世帯（n=164）	73.8	71.3	51.2	22.0	22.6	18.9	0.0	3.0	2.4	0.6
子どもなし・高齢者がいる世帯（n=160）	78.8	63.8	49.4	18.8	21.3	28.8	0.0	1.3	1.9	0.6
子どもあり・高齢者がいない世帯（n=147）	74.1	58.5	33.3	34.0	25.2	16.3	0.7	2.0	4.8	0.7
子どもあり・高齢者がいる世帯（n=61）	83.6	63.9	39.3	34.4	36.1	29.5	1.6	3.3	3.3	0.0

「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの

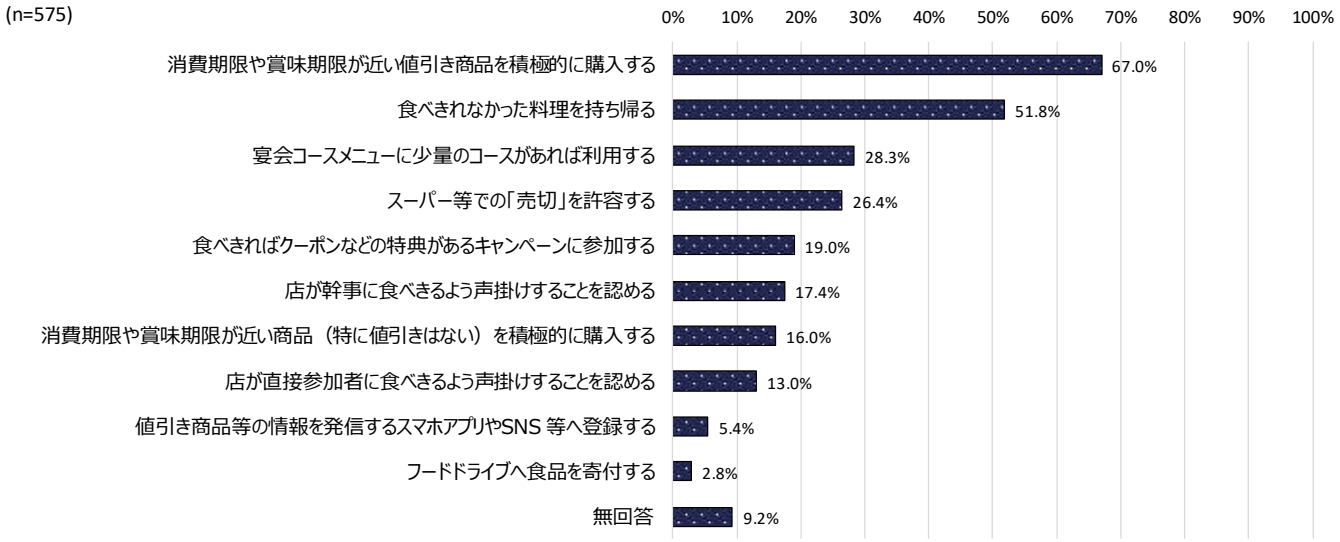
○ 一週間分の献立を考えて計画的に買い物する。
○ 少しくらい日にちが過ぎても食べている。
○ おいしい料理を作り、まずくて捨てることをしない。
○ 味を変えたりして食べ切るようにする
○ 残り物は自分で食べる。（料理はほとんど捨てない）
○ 必要な物しか買わない。献立を考えてから買い物をする。
○ 野菜くずはたい肥にしている。
○ 冬期は（11 月ごろ～4 月ごろ）庭の花壇に作った小道に穴を深く掘り、野菜・果物の皮を捨て、土をかぶせ、木酢液をかけている。
○ 近所の友達に実家から送られてきた野菜や果物をおすそ分けしている。
○ フードバンクやフードドライブなどに寄付をしたいけれどどうすればよいか分からない。
○ 里から大量に届くと早めに隣人に届ける

問１０ スーパーや飲食店等で食品ロスを削減するキャンペーンや取り組みに協力したいと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

スーパー等の食品小売店に協力できる内容としては、「消費期限や賞味期限が近い値引き商品を積極的に購入する」が 67.0%と最も多くなっています。

飲食店に協力できる内容としては、「食べきれなかった料理を持ち帰る」が 51.8%、「宴会コースメニューに少量のコースがあれば利用する」が 28.3%となっています。

図表 2-29 協力できる食品ロス削減の取り組み



年代別に見ると･･･

いずれの取り組みも、若い世代において協力への意向が強くなっています。

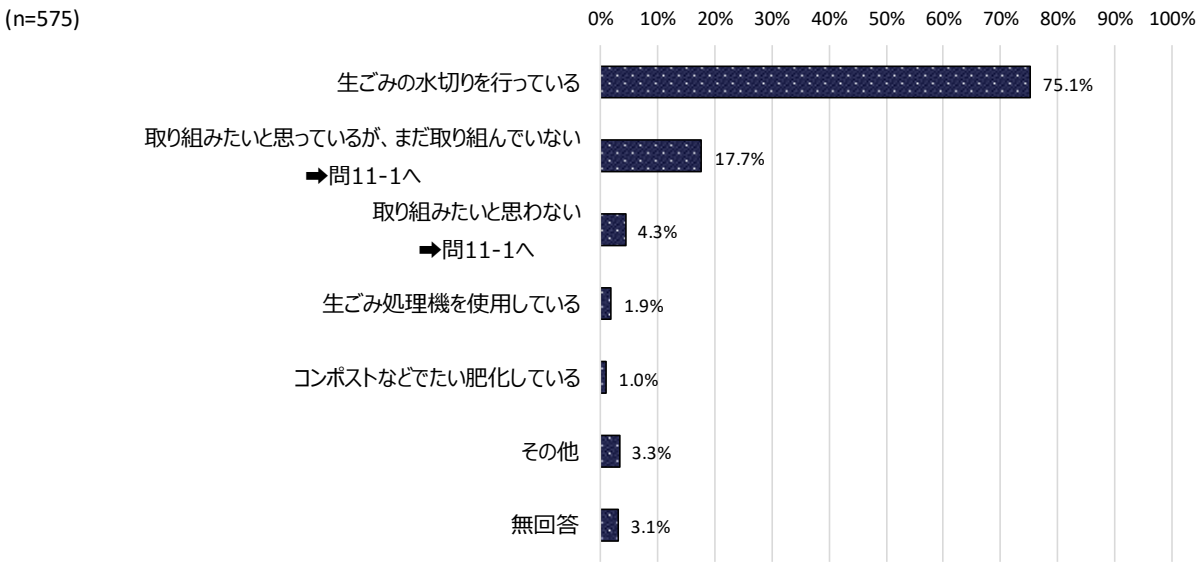
図表 2-30 協力できる食品ロス削減の取り組み 年代別

（%）	消費期限や賞味期限が近い値引き商品を積極的に購入する	食べきれなかった料理を持ち帰る	宴会コースメニューに少量のコースがあれば利用する	スーパー等での「売切」を許容する	食べきればクーポンなどの特典があるキャンペーンに参加する	店が幹事に食べきるよう声掛けすることを認める	消費期限や賞味期限が近い商品（特に値引きはない）を積極的に購入する	店が直接参加者に食べきるよう声掛けすることを認める	値引き商品等の情報を発信するスマホアプリやSNS等へ登録する	フードドライブへ食品を寄付する	無回答
全体 (n=575)	67.0	51.8	28.3	26.4	19.0	17.4	16.0	13.0	5.4	2.8	9.2
20代 (n=26)	80.8	53.8	30.8	26.9	30.8	38.5	34.6	19.2	11.5	7.7	3.8
30代 (n=58)	70.7	65.5	31.0	29.3	34.5	24.1	15.5	19.0	12.1	3.4	3.4
40代 (n=86)	73.3	54.7	30.2	24.4	26.7	23.3	12.8	11.6	7.0	5.8	5.8
50代 (n=106)	74.5	57.5	33.0	37.7	30.2	19.8	17.0	17.9	7.5	1.9	5.7
60代 (n=123)	69.9	56.1	28.5	29.3	15.4	10.6	15.4	12.2	3.3	1.6	6.5
70代 (n=127)	57.5	38.6	25.2	18.9	5.5	13.4	11.8	10.2	2.4	1.6	15.7
80代以上 (n=44)	45.5	43.2	15.9	15.9	0.0	9.1	22.7	4.5	0.0	2.3	20.5

問１１ 台所からの生ごみ（調理くずなど）を減らすために取り組んでいることはありますか。（あてはまるもの全てに○）

生ごみを減らす取組みについては、「生ごみの水切りを行っている」が 75.1%と最も多くなっています。「生ごみ処理機」（1.9%）や「コンポストなどでたい肥化している」（1.0%）は取組んでいる割合が低くなっています。

図表 2-31 生ごみを減らす取組みについて

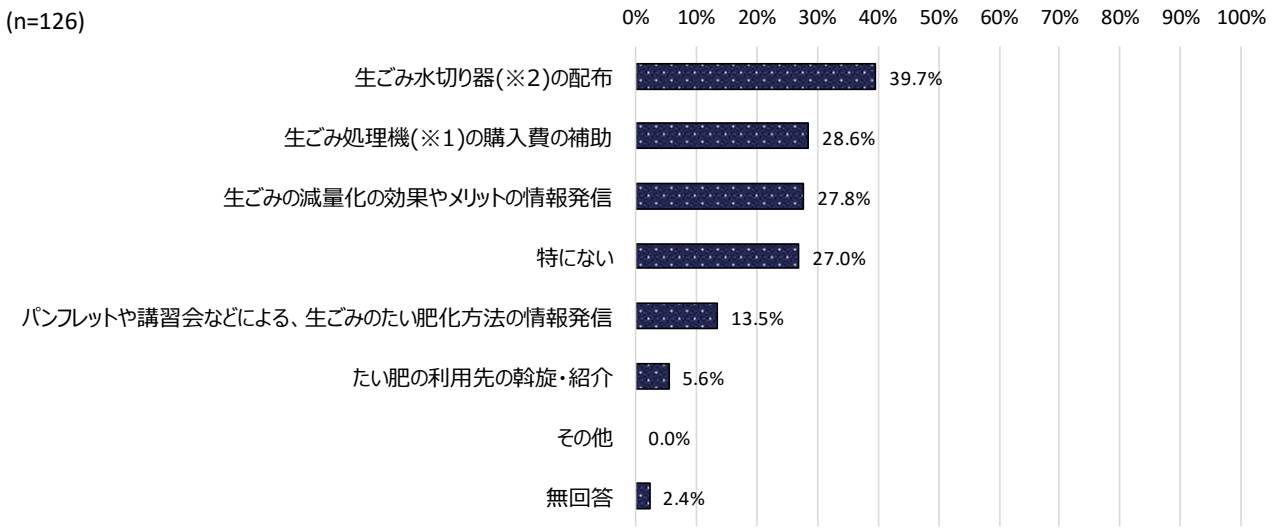


「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの
○ ディスポーザー使用
○ シンクに三角コーナーを置かない
○ 食品はなるべく使い切るものだと思っています
○ 生ごみをぬらさない。超少量なので
○ 出来るだけ乾かして出す
○ 庭に埋める
○ 生ごみを増やさないように努め、茶がら等は植木の肥料にしてます
○ 生ごみ処理機は家には必要無いがマンションで１台とかあれば利用する。

問１１－１ どのような支援があれば、生ごみの減量化に取り組みますか。（あてはまるもの全てに○）

生ごみを減らす取組みをすすめるために、どのような支援があればよいか、取組んでいない回答者に尋ねたところ、「生ごみ水切り器の配布」（39.7%）や「生ごみ処理機の購入費の補助」（28.6%）など減量ツールの導入に対する支援に次いで、「生ごみの減量化の効果やメリットの情報発信」（27.8%）が望まれています。

図表 2-32 生ごみ減量に必要な支援



「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの

【選択肢以外の頻度・分別】

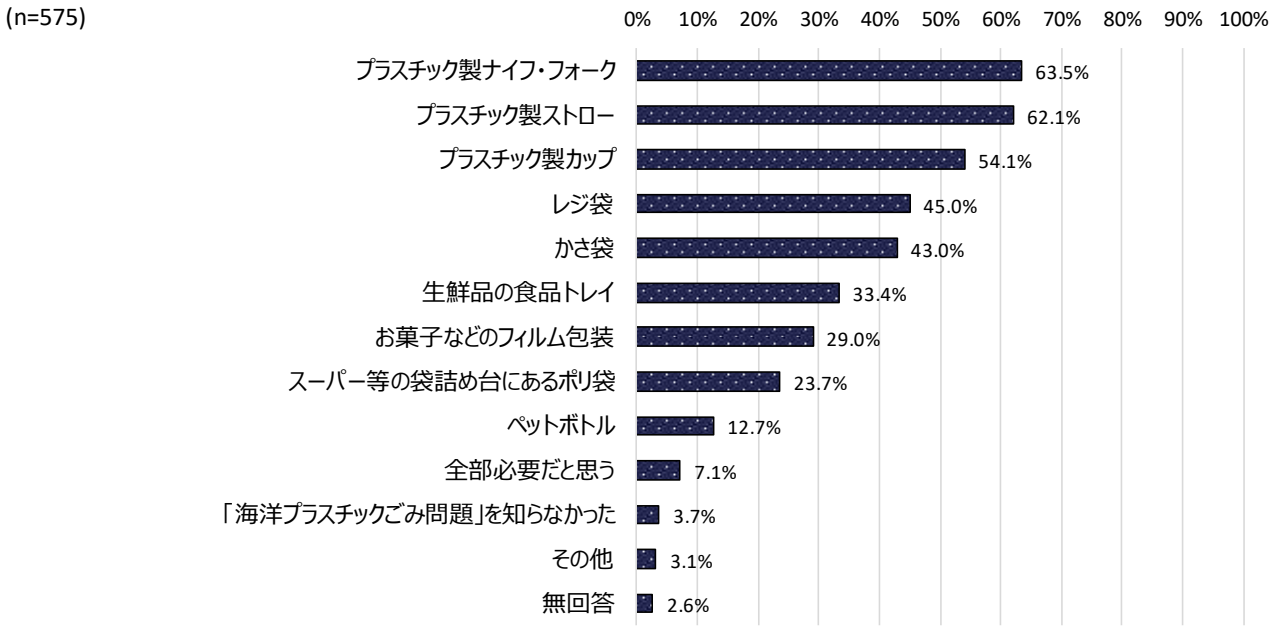
○ 補助よりもレンタルとかはないのですか？興味はあってもなかなかお金に厳しいから購入できない。

（6） プラスチックごみについて

問１２ 次の使い捨てプラスチック製品のうち、海洋プラスチックごみ問題（※）解決のために、使わなくてもよいと思うものをお教えください。
（※）私たちが使用したプラスチックが自然環境に拡散し、魚等の生き物の体内から見つかり、生態系への影響が懸念されています。これらは「海洋プラスチックごみ問題」と言われています。
（あてはまるもの全てに○）

「プラスチック製ナイフ・フォーク」（63.5%）、「プラスチック製ストロー」（62.1%）や「プラスチック製カップ」（54.1%）は半数以上の方が「使わなくても良い」としています。また「レジ袋」や「かさ袋」についても、4 割程度が不要としており、これらプラスチック製品については、使用抑制に一定の理解があると考えられます。

図表 2-33 使わなくてもよいプラスチック

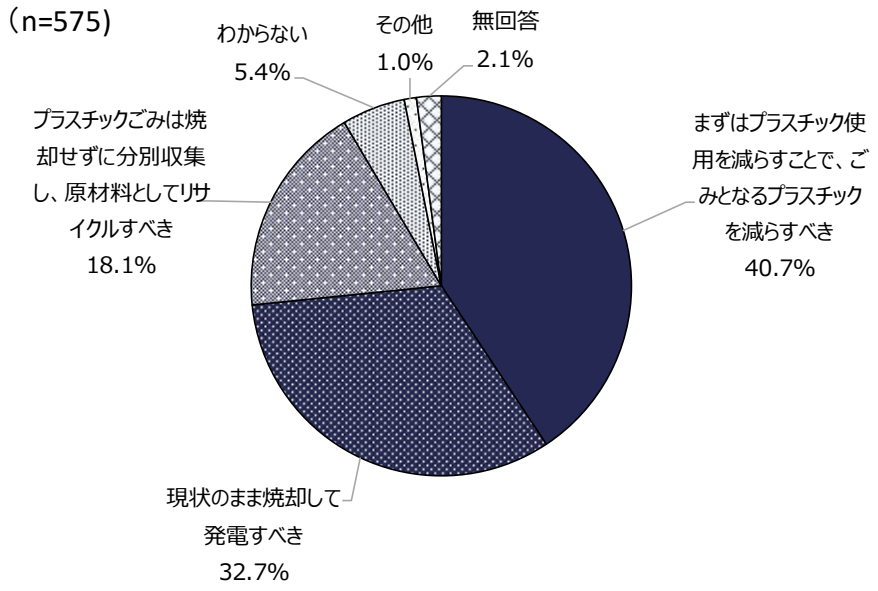


「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの
○ 使用する事より、捨て方の問題だと思う
○ カップ・ストロー・ナイフ・フォークは家庭にいる時は不要だが、外出時は必要な時もある。必要な時に店に声かけをすればよいのでは
○ 代替品があれば全部不要
○ これらのものを海・川に捨てる事が問題である
○ ちゃんと捨てているので燃えていると思っていました。なぜ海に流れるのですか？
○ たばこのポイ捨て（が問題）
○ カップ類のカップを紙にする
○ プラスチック製ストローを紙ストローにすべき
○ ビニール傘は不要
○ 「スーパー等の袋詰め台にあるポリ袋」の代わりに紙袋があると助かる

問１３ 現在、尼崎市ではプラスチックごみを「燃やすごみ」として収集し焼却しており、その際に発生した熱で発電を行っています。一方、プラスチックごみは、海洋プラスチック問題や地球温暖化防止の観点から、分別して収集し、原材料としてリサイクルする方法もありますが、それには収集や選別施設の建設など多額の費用がかかります。今後、プラスチックごみの処理方法はどのようにすべきだと考えますか。（あてはまるもの１つに○）

「まずはプラスチック使用を減らすことで、ごみとなるプラスチックを減らすべき」が 40.7%となっており、発生抑制の考え方がある程度浸透している様子がうかがえます。次いで、「現状のまま焼却し発電すべき」が 32.7%となっており、「プラスチックごみは焼却せずに分別収集し、原材料としてリサイクルすべき」は 18.1%となっています。

図表 2-34 今後のプラスチックごみの処理方法



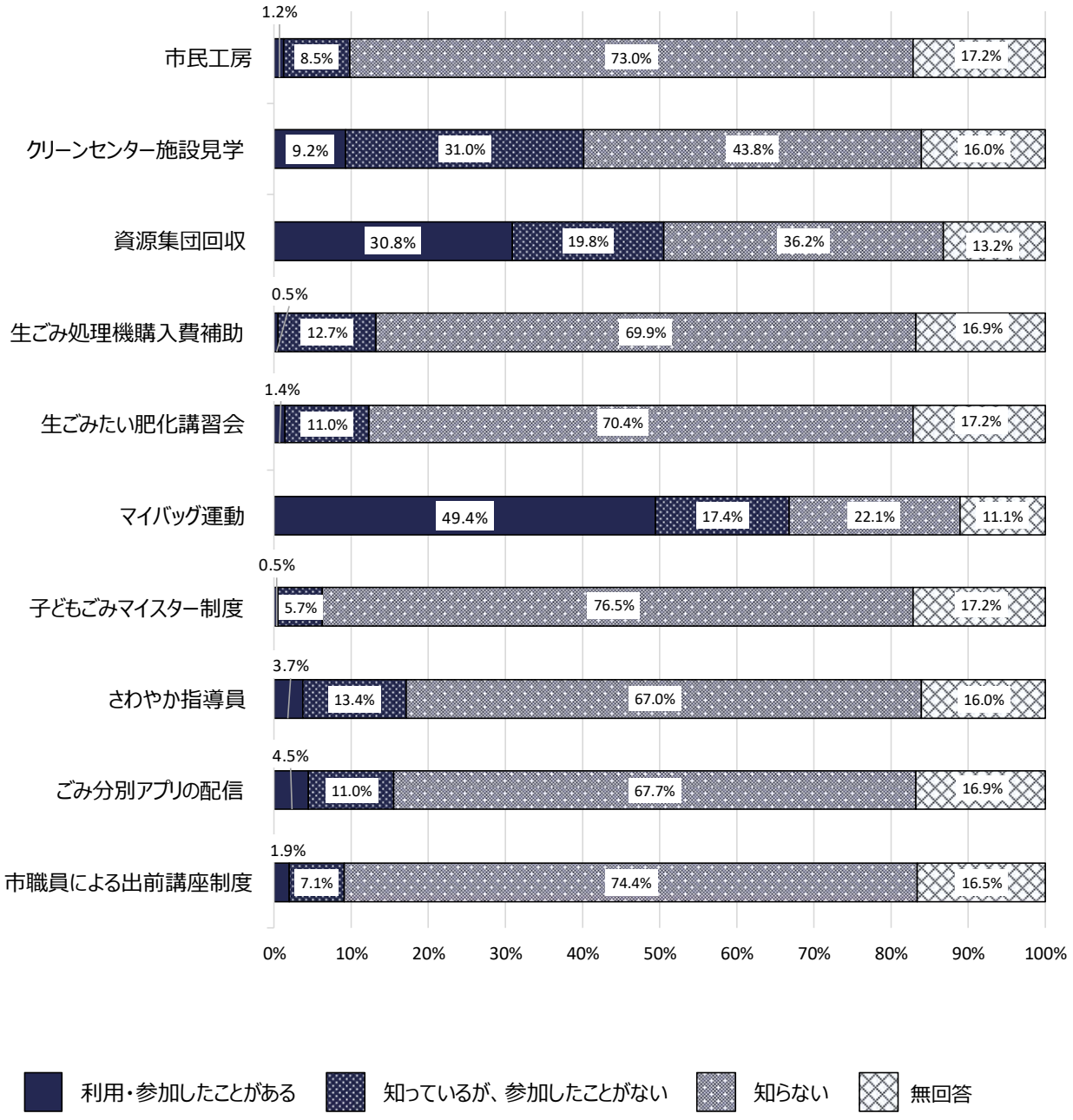
「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの
○ リサイクル施設の建設によるコストと CO2 排出天秤にかけてベターな処理方法を選択すべき
○ 分別のコストと比較を
○ 他市はプラスチックごみは別に収集ですが、尼崎は「燃やすごみ」として収集しておりありがたいです。助かります。発電を行っているのなら嬉しいですネ
○ 発電＞プラスチック問題・地球温暖化ならばそのままで良い。環境に対応したいなら、分別してリサイクル。市内で解決できないなら、近隣の自治体と協力すれば良い
○ リサイクルは良いとは思えません
○ 同時進行すべき。分別、焼却、使用減らすなど
○ リサイクル出来るものはお金がかかっても進めるべき。汚れたものは焼却する
○ プラスチックのスプーン、フォーク、ストローなどスーパー、コンビニに置かない
○ 建設費など具体的なコストが不明なので判断できず

（7） 市の取り組みについて

問１４ 尼崎市では、ごみ減量や適正処理、ごみの出しやすさの向上等を目的に様々な取り組みを行っています。利用しているものや知っているものがあればお教えください。（取組毎に、あてはまるもの１つに〇）

資源集団回収、マイバッグ運動を除き、6 割以上の市民が「知らない」としており、市の取組みが認知されていません。

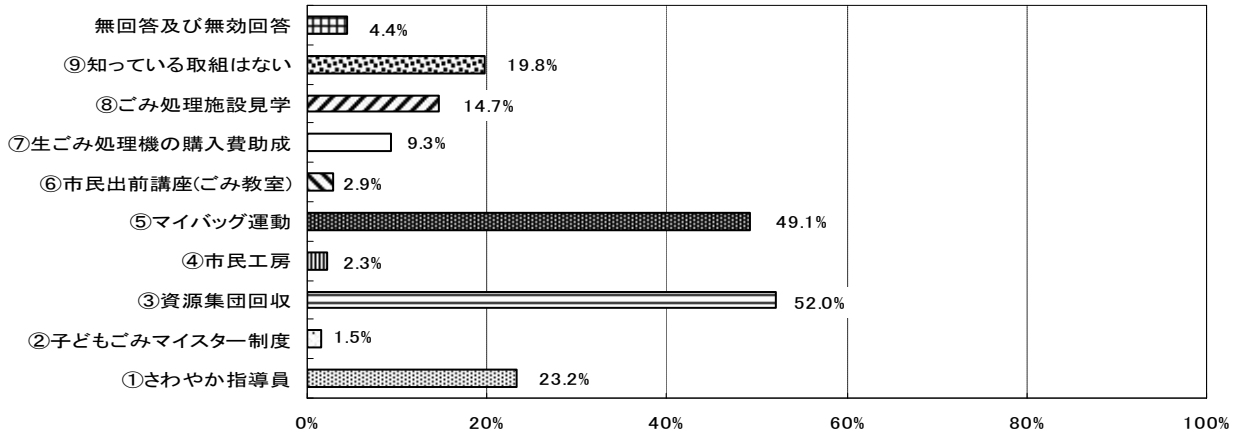
図表 2-35 取組みの認知度について



前回の調査（平成 22 年 7 月実施）との比較

前回調査においても、資源集団回収、マイバッグ運動を除き認知度は低く、市の取り組みが浸透していません。

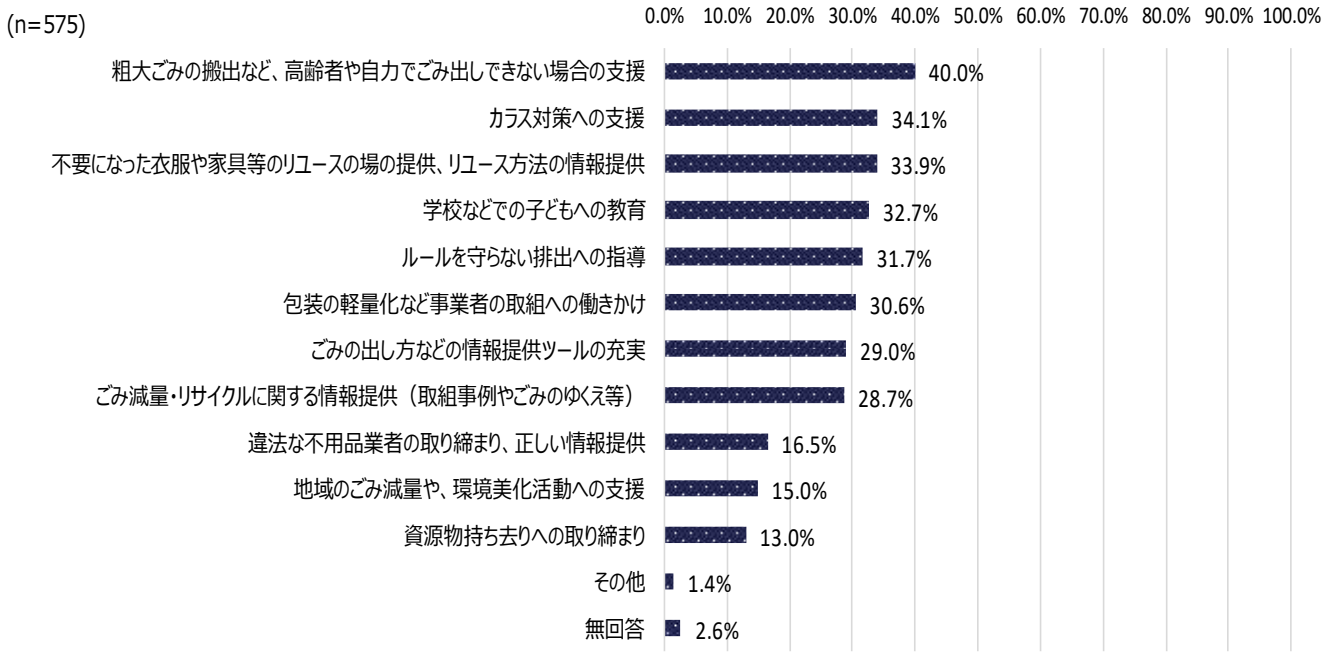
図表 2-36 取組みの認知度について（前回調査結果）



問１５ ごみ減量や安心してごみを排出できる環境づくりとして、今後どのような取り組みが大切だと思いますか。
（重要であると思うもの３つに〇）

今後の取組みとして、「粗大ごみの搬出など、高齢者や自力でごみ出しできない場合の支援」が最も多く 40.0%、次いで「カラス対策への支援」が 34.1%、「不要になった衣服や家具等のリユースの場の提供、リユース方法の情報提供」が 33.9%、「学校などでの子どもへの教育」が 32.7%となっています。

図表 2-37 ごみ出し環境に必要な取り組み

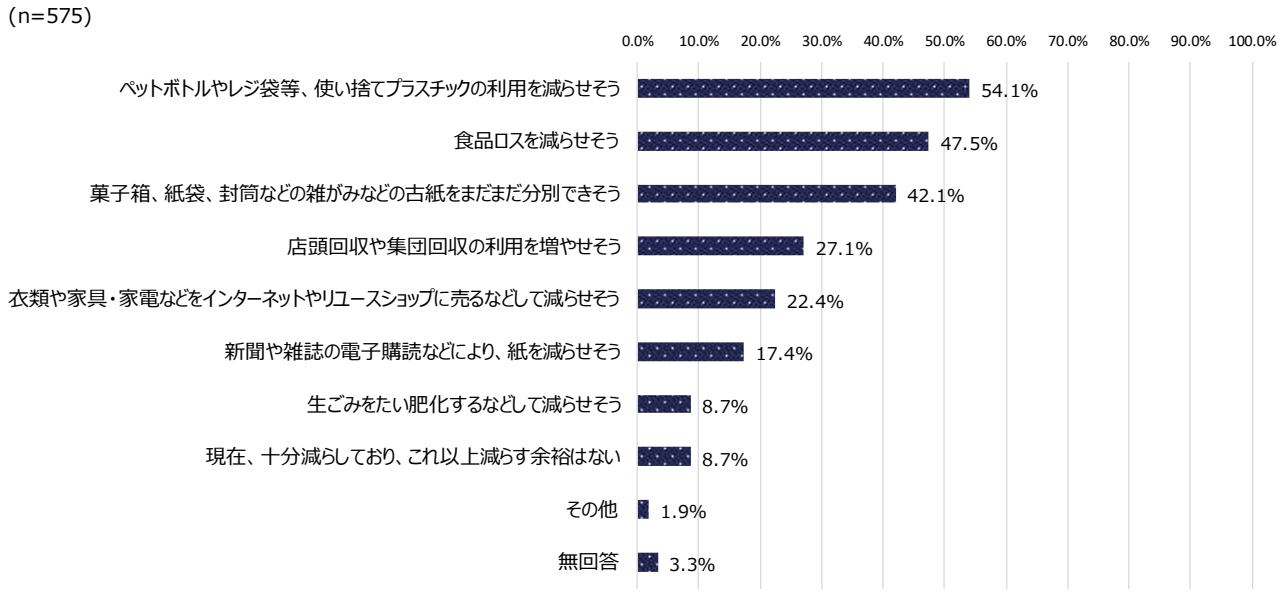


「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの
○ 学校等で配布する紙のペーパーレス化
○ ごみの削減でがきれば電子マネー等のポイントで還元
○ ボランティアの参加
○ 問題の大きさとその対策に必要なコストを考慮して柔軟な対応を
○ 分別をしっかりする
○ 一般ごみの収集回数を 2→3 にする

問１６ 今後、あなたの世帯ではどのような取り組みによってごみを減らせそうですか。（あてはまるもの全てに○）

市民が自宅で取組める内容としては、「ペットボトルやレジ袋等、使い捨てプラスチックの利用を減らせそう」が 54.1%、「食品ロスを減らせそう」が 47.5%となっており、近年話題となっている内容について、理解が進んでいる結果とも考えられます。また、「菓子類、紙袋、封筒などの雑がみなどの古紙をまだまだ分別できそう」も 42.1%となっており、雑がみの分別をより一層進められる可能性があります。

図表 2-38 今後の取り組み

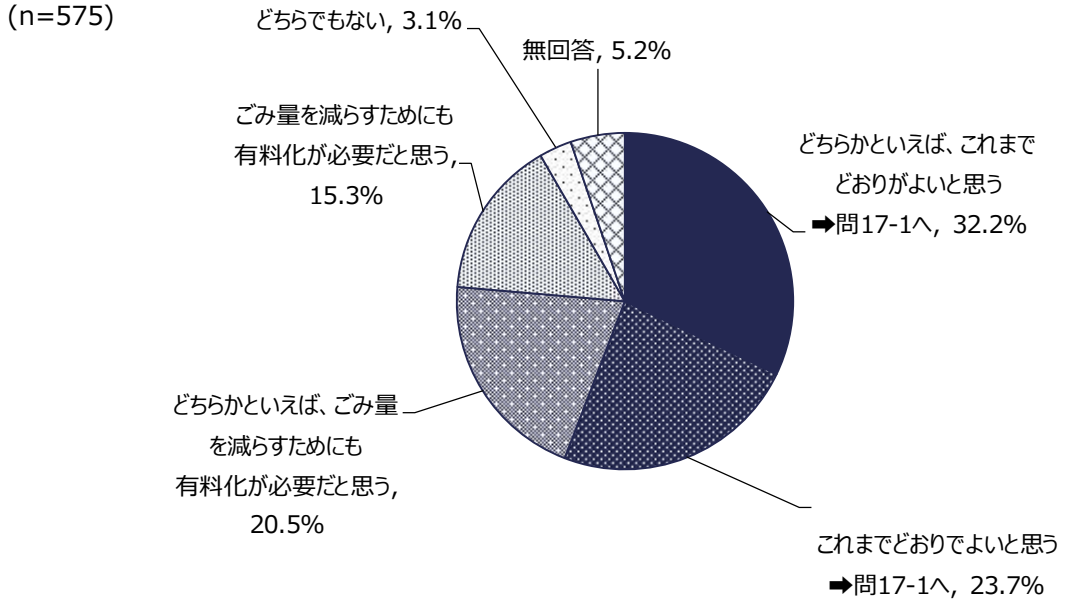


「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの
○ 不要な物（ショップ袋、粗品）を断る
○ チラシを配るメーカーが多すぎる。絶対無駄だと思う。見もしない
○ 世間や安いものが多すぎ。私は良い物を長く使い、無駄なものは買わないようにしています
○ 購入量を全体的に減らす
○ 本当に必要なものか考えてから購入する
○ 店の計り売りの利用をふやす。
○ マイパック持参。
○ 不要な衣類、家具等を寄付している
○ 生ごみをたい肥にしても利用できない
○ 罰や特典がないのでこれ以上減らすモチベーションがわかない。
○ 考えられる限り、日々減らし続けているが、まだまだ減らす余地あり。頑張る。

問１７ ごみ減量意識の向上や多量にごみを出した方が費用を多く負担するという公平性の観点から、ごみ処理費用の一部をごみの量（多い・少ない）に応じて負担していただくため、４５Ｌごみ袋１袋当たり４５～９０円で販売する「ごみの有料化」を導入する自治体が増えています。有料化による収入は、まちの環境美化やごみ出し支援などに活用されています。このようなごみの量に応じて、ごみ処理費用を負担することについてどう思われますか（あてはまるもの１つに○）
（参考：現在の尼崎市の家庭ごみ指定袋の販売価格は１枚あたり１０～１５円程度です。）

ごみ処理費用の負担については、「これまでどおりがよいと思う」(23.7%)、「どちらかといえばこれまでどおりがよいと思う」(32.2%) が多く、あわせて 55.9%が「これまでどおりがよい」としています。一方で「ごみを減らすためにも有料化が必要だと思う」(15.3%)、「どちらかといえばごみを減らすためにも有料化が必要だと思う」(20.5%) の有料化が必要だとする意見もあわせて 35.8%となっています。

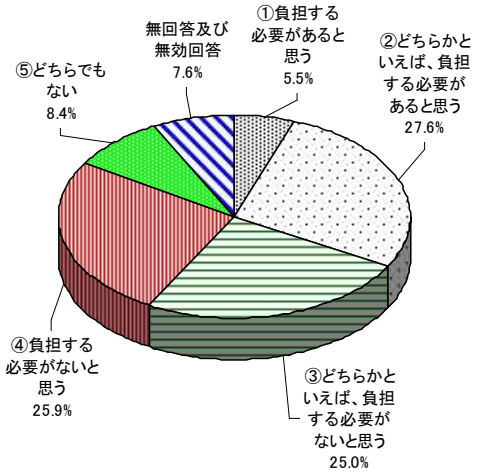
図表 2-39 ごみ処理費用負担について



前回の調査（平成 22 年 7 月実施）から

前回調査では、ごみの有料化については、「負担する必要がある」と回答した方は 5.5%であるものの、「どちらかといえば、負担の必要あり」と回答した方も合わせると 33.1%がごみ処理料金を負担する必要があるとしており、今回調査の 35.8%と同程度となっています。

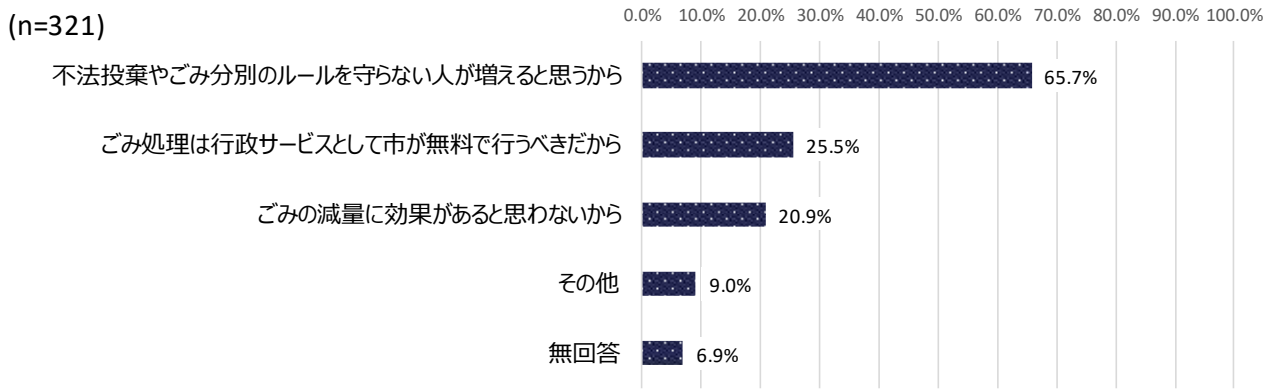
図表 2-40 ごみ処理費用負担について（前回調査結果）



問１７－１ ごみ処理費用の負担の必要がないと思われる理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

ごみ処理費用の負担について、「これまでどおりがよいと思う」、「どちらかといえばこれまでどおりがよいと思う」を選択した回答者に「ごみ処理費用の負担が必要ないと思われる理由」を尋ねたところ、「不法投棄やごみ分別のルールを守らない人が増えると思うから」が 65.7%と最も多くなっています。

図表 2-41 ごみ処理費用の負担の必要がないと思われる理由



「その他」の回答内容（自由記入）－代表的なもの

【有料化の方法】

○ ごみ指定袋を 50～70 くらいは年間無料で配布し、それ以上利用する場合は有料にする

○ 有料化は必要だと思うが、ごみ袋で費用回収する方法は変えた方がよい

○ 一定以上のごみ処理につき有料ならいいかも

○ 有料にするより、１回に出せる量を制限すれば良いと思う。指定袋も無料ではなく、これ以上費用を負担したくない。

【有料化の効果】

○ 有料化による効果はどれくらいあるのでしょうか？

【負担の公平性】

○ 世帯人数が多い家庭ではごみを減らすにも限度があるのに、ごみ袋の価格が上がれば大家族だけが負担が増える。ルールを守らない人も増える。ルールを守る人からではなく守らない人に負担させるべき。

○ 自動販売機がおいてある商店のびん・缶の出す量は一般家庭と比べて多い。以前、市からの説明では別料金を支払うようになっていると聞いたと思うが、実際商売人さんには別料金支払われているのですか。生ごみ有料化は上記解決してからにしてほしい。

○ 家族が多いと必然的にごみは多くなる。頑張ってごみを減らしている大家族からさらにお金をもっと出せというのは気の毒だと思うから

○ 家族が多いとごみ量が多くなるのは当然。ごみ量に応じたごみ処理費用の負担は家族の多い世帯の負担増となる

○ 週に小１～２袋か中１袋、大袋出す家は子どもさんが居るのでは？若い家族は出費が大変と思うので今まで通りで良いと思う。

○ 負担の必要がないと思うのではなく、今まで少ない者からも出費さすことになる

【負担額について】

○　すでに有料ごみ袋を買っているのに負担が増えるのはどうかと思う

○　有料化の値段が高すぎる。

○　安い方が良い

○　45L 袋 25 円までなら市民も協力すると思う。

○　お金がない

○　負担の必要がないんじゃなくて、金がない。払えなくなりそう。

○　年金生活者には負担になるから

○　ごみ袋の金額を上げるとごみ袋を購入できない人も出てくるのでは。現在いろいろな負担があり生活が苦しくなるのは困るのではないでしょうか。

○　もっと高くてもいい。

○　市民税を払っているのにこれ以上有料化では生活ができない

○　家族が居てる側として、ごみの量で費用がかかるのは生活負担が大きい

○　消費税も上がり、その上ごみを捨てることまで負担が増えたら暮らしがどんどん暗くなります

【有料化の前に更なる努力を】

○　減量の努力をしても日々の生活でごみは出ます。生ごみを土に埋めることも都市部ではできません。年金生活者が増える中ごみ処理まで有料になり費用が上がるのはたかが数十円といえど負担です。有料化の前にごみ分別、減量の情報発信などやれることがあるのでは・・・

○　分別を少しだけ詳細に（缶、ビン、ペットボトルの分別）をする事でしばらく様子を見る

○　まずは市民の意識を促す

【不法投棄等の増加を懸念】

○　不法投棄が必ず増え、街が不衛生になる

○　スーパーやコンビニのごみ箱に捨てる人が増えるのでは？

○　今の指定袋の価格帯でも購入せず、他者の出した指定袋にスーパーの袋に入れた家庭ごみを入れてる老人を見かけました。指定袋の値上げはこういう人を増やすだけのように思います

【その他】

○　現状のままでいい

○　今できる範囲で分別し努力している

○　値上げ前の買い占めやマイナスの事も有ると思います。店が不正をして本来の使い方がされないなど不安もあります

○　ごみの量が多いことは何に影響があるのですか。ごみが始末大変になるのですか。

以上